

PN0108

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書はATENジャパン株式会社において、PN0108 取り扱いの便宜を図るため、製品同梱 英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、製品同梱の英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術サポート部

TEL :03-5323-7178

MAIL :support@atenjapan.jp

2008 年 10 月 9 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではありません。

キーボード、マウス、モニタ、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付带的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みにになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応となりますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 納品日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障または破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証のお申し込み手順】

弊社の製品保証規定に従い保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

- (1) **不具合の確認**……製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口で連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。
- (2) **本規定に基づく製品保証のご依頼**……(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『製品納品日が証明できる書類』を用意して、製品を購入された販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。
- (3) **製品の発送**……不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品／液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～3 年	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～2 年	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品納品日から30 日以内に弊社または販売店に申告を頂いた不具合を初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途お問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類はDOA・初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL(生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。

※本保証期間は2007年9月1日以降にご購入された場合に適用されます。それ以前に購入された製品については、1年間の保証となります。

【補足】

- ・ 本規定はATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・ ケーブル類・電源アダプタは初期不良対応に準じます。
- ・ 初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。
- ・ 製品保証を受けるにあたり、製品の納品日が証明できない場合は製品のシリアルナンバーから判別した製造日を起算日とします。ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、全て有償修理とさせていただきます。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業推進部 TEL:03-5323-7170 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術サポート部 TEL :03-5323-7178 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

FCC.....	9
RoHS	9
SJ/T 11364-2006	9
安全にお使い頂くために	10
一般的な注意事項	10
ラックマウントに関する注意事項.....	12
電源コードに関する注意事項.....	13
同梱品	14
本マニュアルについて.....	15
マニュアル表記について	16
第1章 はじめに.....	17
製品概要	17
特長.....	19
必要システム構成.....	20
製品各部名称	21
フロントパネル	21
リアパネル.....	23
第2章 ハードウェアセットアップ	24
セットアップの前に.....	24
デバイスの卓上設置とラックマウント	24
卓上設置.....	24
ラックマウント	25
単体使用	27
デジチェーン接続.....	29
第3章 ログイン	30
概要.....	30
CN-6000 ブラウザメニューからのログイン.....	30
ログイン	30
PN9108 ブラウザメニューからの操作.....	33
ログイン	33
PN9108 メイン画面	34
SN0108/SN0116 ブラウザメニューからの操作	35
ログイン	35

SN0108/SN0116 メイン画面	36
ローカルコンソール操作	40
ハイパーターミナル	40
Java アプリケーション	44
第 4 章 操作方法	46
PN0108 メイン画面	46
Device Selector	47
Device Control	47
Power Status 画面	48
第 5 章 管理方法	51
System Setup	51
Administrator	51
Connection Control	51
Device Control	52
Configuration	52
Schedule	57
User Management	58
Monitor	59
Log	60
第 6 章 セーフシャットダウン/リブート	62
概要	62
BIOS における電源管理設定	62
自動セットアップ	63
インストール	64
アンインストール	65
手動セットアップ	66
Windows 2000/XP/Server 2003	66
Windows NT	68
第 7 章 ファームウェアアップグレード	69
アップグレード作業をはじめる前に	69
アップグレード開始	71
アップグレード成功	74
アップグレード失敗	75
ファームウェアアップグレードリカバリー	76
単体使用時のリカバリー方法	76
デイジーチェーン接続時のリカバリー方法	76

付録.....	77
トラブルシューティング	77
概要.....	77
PN0108 との併用対応製品.....	80
アドミニストレーターでログインできない場合	81
信頼された証明書	82
概要.....	82
証明書のインストール.....	83
証明書のインストール完了	84
製品仕様.....	85

FCC

本製品はFCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

○: 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。

●: 表示符合欧盟的豁免条款，但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。

×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



安全にお使い頂くために

一般的な注意事項

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために3ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせ適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。

- ◆ ホットプラグ対応パワーサプライの取り付け、または取り外しする場合は、以下の注意事項に従ってください。
 - 電源ケーブルを接続する前に、パワーサプライのセットアップを行ってください。
 - パワーサプライを取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。
 - お使いのシステムが複数のパワーサプライをお使いである場合、パワーサプライからすべての電源ケーブルを抜いてお使いのシステムから切り離してください。
- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。

ラックマウントに関する注意事項

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業前にフロントとサイドのスタビライザーをシングルラックに取り付けるか、多機能ラックをフロントスタビライザーに取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押してラックからデバイスの出し入れをする際にはスライドレールに指を挟まないようご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、注意してレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設定されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

電源コードに関する注意事項

製品を使用する際には、必ず製品付属のケーブルを使用してください。異なるケーブルを使用した場合はサポート対象外となります。

同梱品

PN0108 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

◆ PN0108 Power Over the Net™	×1
◆ AC 電源ケーブル	×1
◆ IEC60320 NEMA 変換ケーブル	×8
◆ セーフシャットダウンケーブル	×8
◆ PON ケーブル(デ이지チェーンケーブル) (DB9 メスーDB9 オス)	×1
◆ ラックマウントキット	×1
◆ フットパッドセット(4 個入)	×1
◆ ソフトウェア CD	×1
◆ 英語版ユーザーマニュアル	×1
◆ 多言語版クイックスタートガイド	×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、PN0108 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

第1章 はじめに:PN0108 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明しています。

第2章 ハードウェアセットアップ:PN0108 の基本的なハードウェアセットアップの手順を説明しています。

第3章 ログイン:PN0108 にアクセスする方法について説明します。

第4章 操作方法:ログイン後に行う PN0108 の設定や操作方法について説明します。

第5章 管理方法:PN0108 での作業環境を設定する管理メニューについて説明します。

第6章 セーフシャットダウン/リブート:PN0108 を利用した、ファイルシステムに影響を及ぼさない、安全なシステムシャットダウンおよびリブートの方法について説明します。

第7章 ファームウェアアップグレード:PN0108 に最新版のファームウェアを適用する方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。



◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。



矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Runを選択することを意味します。

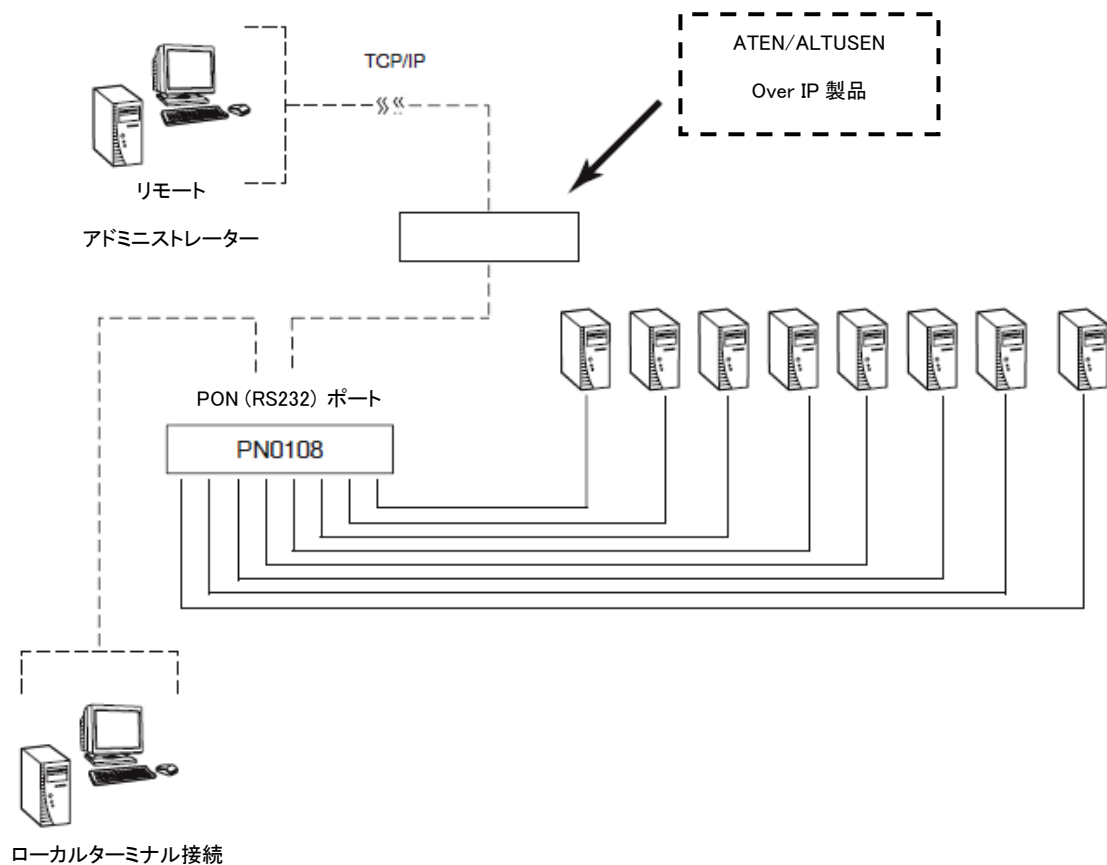


重要な情報を示しています。

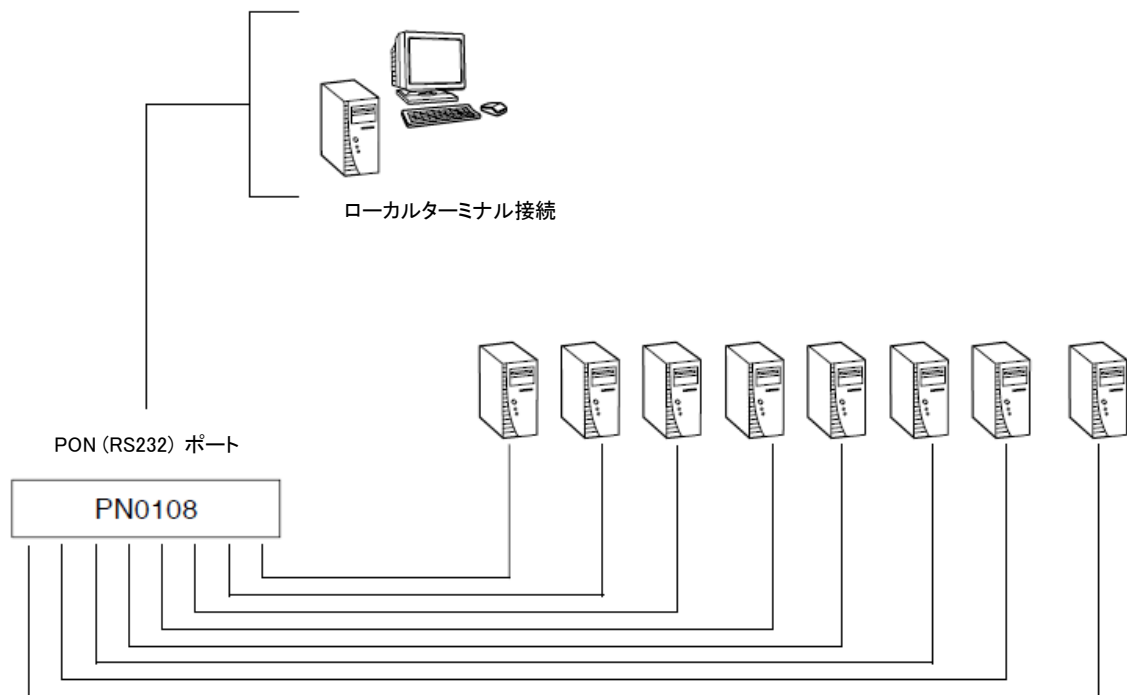
第1章 はじめに

製品概要

PN0108 Power Over the Net™は、最大8台のデバイス(コンピュータ、ハブ、ルーター等)の電源をリモート管理できる製品です。ATEN または ALTUSEN の Over IP 製品が PN0108 の PON (RS232)ポートに接続されていれば(下図参照)、アドミニストレーターはインターネットに接続されているコンピュータならどこからでも一街角でも地球の裏側からでもPN0108 にアクセスすることができ、PN0108 を使用してコンピュータのシャットダウン、起動、リブートを行うことができます。PN0108 と接続可能な製品の詳細については p.80 の「PN0108 との併用対応製品」をご参照ください。



また、PON ポートを使用して、シリアルターミナルセッション経由で PN0108 をローカル管理することも可能です。



PN0108 は最大 15 台のユニットをデイジーチェーンすることで、128 台のデバイスの電源をリモート管理することができます。セットアップに必要な作業はケーブルを適切に接続するだけです。簡単で時間もかかりません。

PN0108 のファームウェアの最新版は弊社 Web サイトにて提供しておりますので、定期的にファームウェアをダウンロードし、お使いの PN0108 に適用することで最新の機能をご利用いただけます。

先端の機能と高い操作性を備えた PN0108 は、複数のコンピュータをリモートから電源管理する場面における利便性や信頼性、また、コストの削減といった点で、最も優れた製品であると言えるでしょう。

特長

- ◆ 8 台のデバイスに対応したリモート電源管理ユニットーTCP/IP、製品内蔵 RS-232 PON (Power Over the Net™) ポート経由でリモートからデバイス電源の ON/OFF やリブートが可能
- ◆ PN0108 PON ポート経由でコンピュータの RS-232 ポートに対するローカル操作を行うことで、デバイス電源の ON/OFF/リブートが可能
- ◆ デイジーチェーン接続対応ー最大 15 台の PN0108 のデイジーチェーン接続時には 128 台のデバイスの電源管理が可能
- ◆ フロントパネルのプッシュボタン操作でローカル/リモートアクセスを手動切替
- ◆ ポートの個別管理ーユーザーは各ポートに対する電源 ON /OFF の遅延時間を設定することで、適切な順序でデバイスを起動/シャットダウンすることが可能
- ◆ GUI インターフェースでセットアップや操作が簡単
- ◆ PN0108 の設定・管理の手段として、ブラウザ、Telnet、コンソールターミナルといった 3 つの方法を提供
- ◆ セーフシャットダウン/リブートに対応 (Windows のみ*)
- ◆ ポート別過電流保護・復帰 (110V モデルのみ)、全ポート過電流保護 (両モデル対応)ーリモートユーザーは GUI インターフェースによって現在のステータスを監視することが可能
- ◆ ユニット電源およびデバイスへの電源は分離回路を使用ー過電流状態によってデバイスのブレーカーが作動しても、電源管理ステータスメニューへのアクセスが可能
- ◆ デバイスの電源 ON/OFF のスケジュール管理機能ー1 回のみ実行されるタスクから、日次、週次の起動/シャットダウンに至るまで、用途に合わせたスケジューリングが可能
- ◆ ポートグループ機能ーPN0108 に接続されたデバイスをグループ分けし、グループ単位で同時に電源管理をすることが可能
- ◆ ステータスが一目でわかる LED ランプ内蔵
- ◆ 2 レベルのユーザー権限ーアドミニストレーターおよびユーザー
- ◆ 設定のリセットが可能
- ◆ ファームウェアアップグレード可能ーPN0108 にデイジーチェーン接続された機器もデイジーチェーンケーブル経由で同時にアップグレード

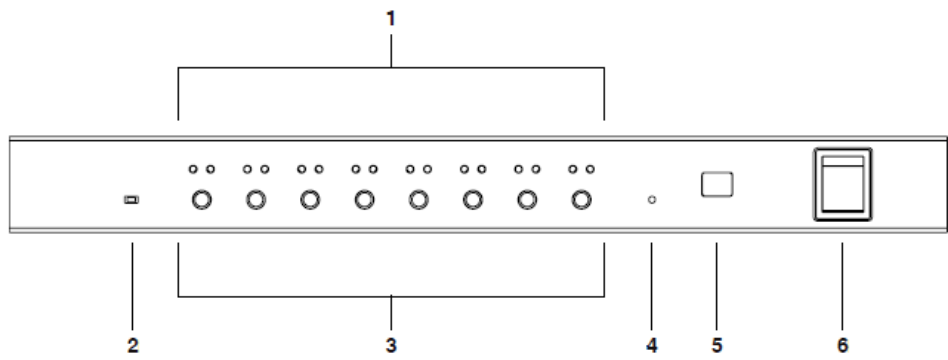
* セーフシャットダウン/リブート機能は、電源モニタユーティリティがインストールされている環境でご利用いただくことができます。(p.63「自動セットアップ」参照)

必要システム構成

- ◆ PN0108 に接続するブラウザは、128ビット SSL 暗号化通信に対応している必要があります。
- ◆ Java を利用して PN0108 にアクセスする場合、お使いのコンピュータに Java J2RE (1.4 以降) がインストールされている必要があります。Java は Sun Java の Web サイトから無料でダウンロードすることができます。 <http://java.sun.com>
- ◆ PN0108 に接続されたコンピュータをコールドスタートする場合、そのコンピュータの BIOS がコールドスタートに対応していなければなりません。
- ◆ 安全にシャットダウンしていただくために、PN0108 に接続されているコンピュータに以下の環境が整っていることを確認してください。
 - コンピュータの OS が Windows であること (Windows98 以降)
 - コンピュータの BIOS がセーフシャットダウンに対応していること (詳細は p.62 の「概要」を参照)
 - セーフシャットダウンケーブルを接続する COM ポートがコンピュータに搭載されていること

製品各部名称

フロントパネル

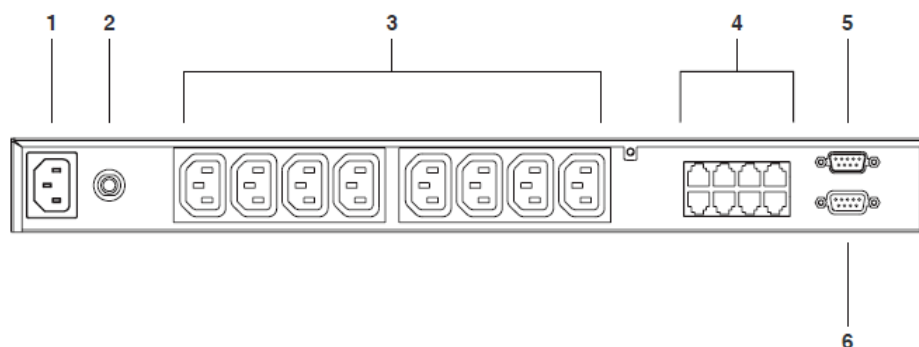


No.	名称	説明
1	ポート LED	各ポートに 2 個 1 組で内蔵されており、対応する AC 電源ポートのステータスを表します。左側の LED はリモートアクセス LED (REMOTE)、右側の LED は電源 LED (POWER) です。 ◆ リモートアクセス LED が緑色に点灯している場合、そのポートへのリモート管理が可能であることを表します。 ◆ 電源 LED がオレンジ色に点灯している場合、そのポートに通電があることを表しています。また、以下の状態の場合に、この LED は点滅します。 ➤ 「Modem Ring Resume」が有効になっている場合 (p.53 参照)、ポートに接続されたコンピュータに電源が入っていない場合、電源出力ポートには電源が供給されています。このとき、電源 LED は OFF/ON の点滅を 8 秒間繰り返した後、OFF/ON の点滅を 8 秒間繰り返します。 ➤ 電源の状態変化を待機している間、LED は変更が行われるまで点滅し続けます。 ◆ 両方の LED が点滅している場合、過電流状態になっているか、リレーに失敗したかを表します。詳細については p.48 の表における「電球マークが点灯」の項目をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
2	ファームウェア アップグレード スイッチ	通常、このスイッチは NORMAL の位置にセットしてお使いください。ファームウェアのアップグレード作業の際には、このスイッチを RECOVER の位置にスライドさせてください。ファームウェアアップグレードの詳細については p.69 の「ファームウェアアップグレード」の内容をご確認ください。
3	電源操作ボタン	A～H の各ボタンで対応する電源出力ポートを以下のように操作します。 ◆ このボタンを 1～3 秒間押すと、ポートへのリモートアクセス有効/無効(ローカルモード)を切り替えて設定します。リモートアクセスが無効である場合、ポートはリモート接続で管理することができません。(ポートに対するリモートアクセスモードが無効になっている場合、そのポートに対応するリモートアクセス LED は消えます。) ◆ ローカルモードで、このボタンを 3 秒以上長押しすると、そのポートに接続されたデバイスの電源を ON または OFF に切り替えます。
4	リセットスイッチ	このスイッチを 3 秒以上長押しすると、PN0108 の設定は工場出荷時のデフォルト値に戻ります。このスイッチはピンホール型になっておりますので、クリップやペンなど先が細く尖ったものを使って押してください。
5	ステーション ID LED	PN0108 のステーション ID はここに表示されます。PN0108 を単体でお使いの場合 (p.27)、また、デイジーチェーン接続の構成における 1 台目の機器としてお使いの場合 (p.29)、この PN0108 にはステーション ID として 01 が付番されます。
6	電源スイッチ	PN0108 の電源の ON/OFF を行うロッカースイッチです。

リアパネル



No.	名称	説明
1	電源出力ポート	AC 電源と接続する電源ケーブルをここに挿します。
2	ブレーカー	ブレーカーが作動した際に復旧させる場合は、このボタンを押してください。
3	AC 電源出力ポート	IEC 60320 C14 規格のコネクタです。製品同梱の IEC60320 NEMA 変換ケーブルを使用して、コンピュータと接続します。
4	セーフシャットダウンポート	コンピュータに接続したセーフシャットダウンケーブルをこのポートに挿すことによって、Windows 98SE、ME、NT、2000、XP、2003 Server でセーフシャットダウン/リブートを行うことができます。
5	PON (Power Over the Net™) 出力ポート	PN0108 をデジチェーン接続する際の Chain Out ポートです。デジチェーン接続の詳細に関しては p.29 をご参照ください。
6	PON 入力ポート	◆ PN0108 を単体使用する場合、あるいはデジチェーン接続の構成において 1 台目の機器としてお使いになる場合に、CN-6000 またはその他の併用対応機種 (p.80 参照) に接続された PON ケーブルをここに挿します。 ◆ PN0108 をデジチェーン接続してお使いの場合、親機の Chain Out ポートに接続された PON ケーブルをここに挿します。 ◆ ファームウェアアップグレードを行う場合、PN0108 と、アップグレード対象となるファームウェアを転送するコンピュータ (p.69 参照) を接続する PON ケーブルをここに挿します。

第2章 ハードウェアセットアップ

セットアップの前に

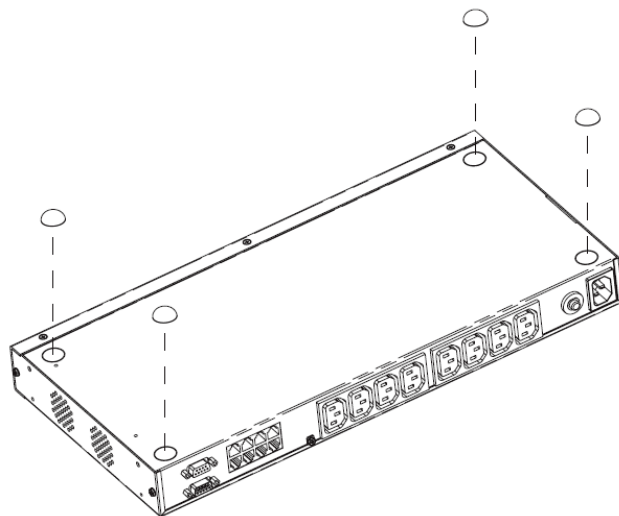


1. 機器の設置に際し重要な情報を p.10 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源が OFF になっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。

デバイスの卓上設置とラックマウント

卓上設置

PN0108は製品本体と接続されるケーブルの重量に耐えられ、安定した水平な場所であれば、どんな場所でも設置することが可能です。PN0108 本体を置く際には、同梱ゴム製フットパッドの裏面のはくり紙をはがし、下記の図のように PN0108 底面の四隅に貼り付けてください。

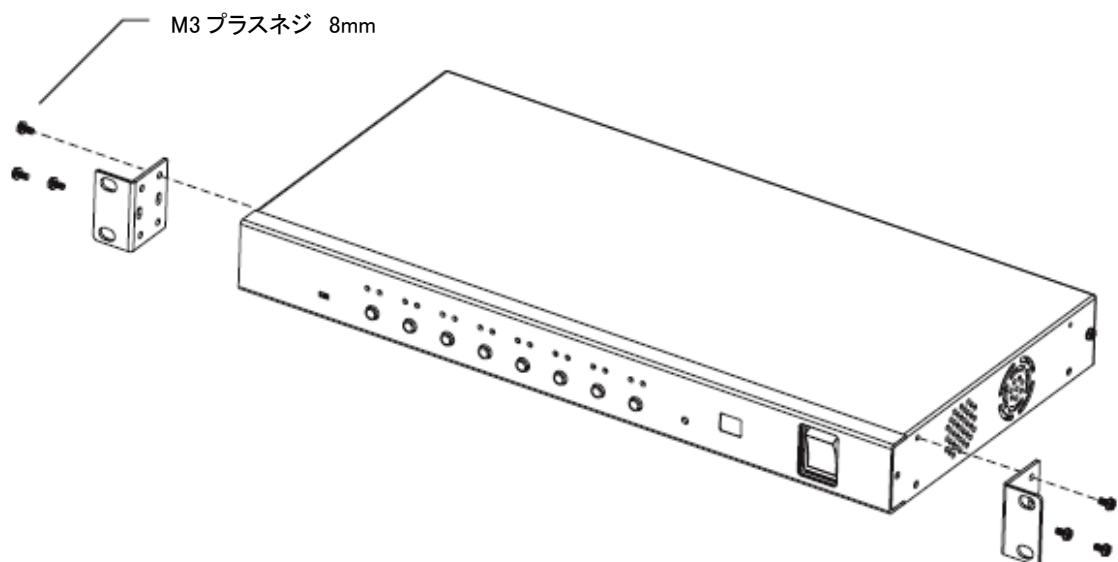


注意: 機器への通気を確保するために、製品の両側面は 5.1cm 以上、また、背面は電源コードやケーブルの配線用スペースも考慮に入れて 12.7cm 以上の空間をもうけるようにしてください。

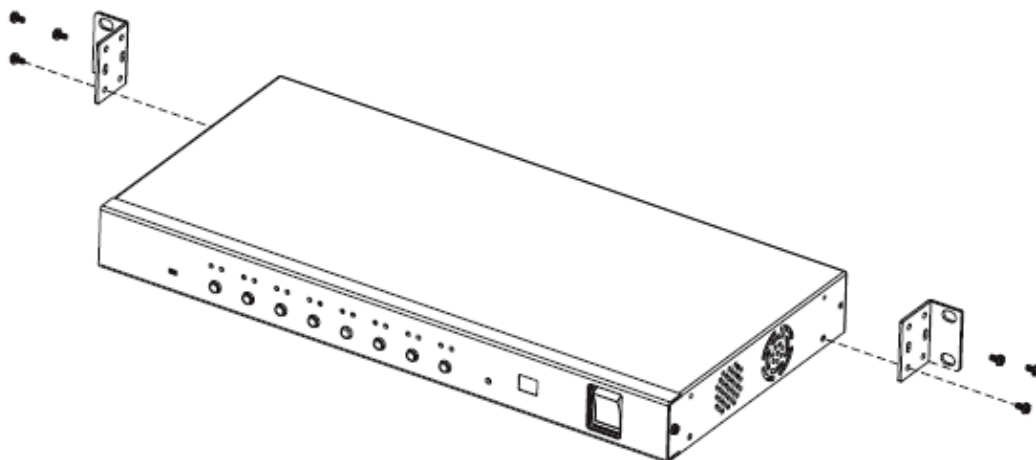
ラックマウント

PN0108 は EIA 規格 19 インチラックの 1U サイズでマウントできる製品です。ラックマウントは以下の手順で行ってください。

1. 製品同梱のラックマウントキットに付属しているネジを使って、ラックマウント用金具を下図のように PN0108 の両サイドに取り付けます。



注意: PN0108 はシステムラックのフロント、リアのどちら側にもマウントすることができます。ラックのリア側にマウントする場合は、PN0108 のリア側にラックマウント用の金具をネジ止めしてください。



2. PN0108 に取り付けしたマウント用金具の穴をシステムラックの適当な位置に固定してください。
3. マウント用金具をネジ止めして、PN0108 をシステムラックに取り付けてください。

注意: ケージナットは製品に同梱されておりませんので、お手数ですがお使いのシステムラックに適したものを別途ご用意ください。

単体使用

PN0108 を1台で使用する場合は別の機器とデジチェーン接続する必要はありません。次のページ以降の接続図(図中の番号は手順の番号に対応)を参考にし、セットアップを以下の手順で行ってください。

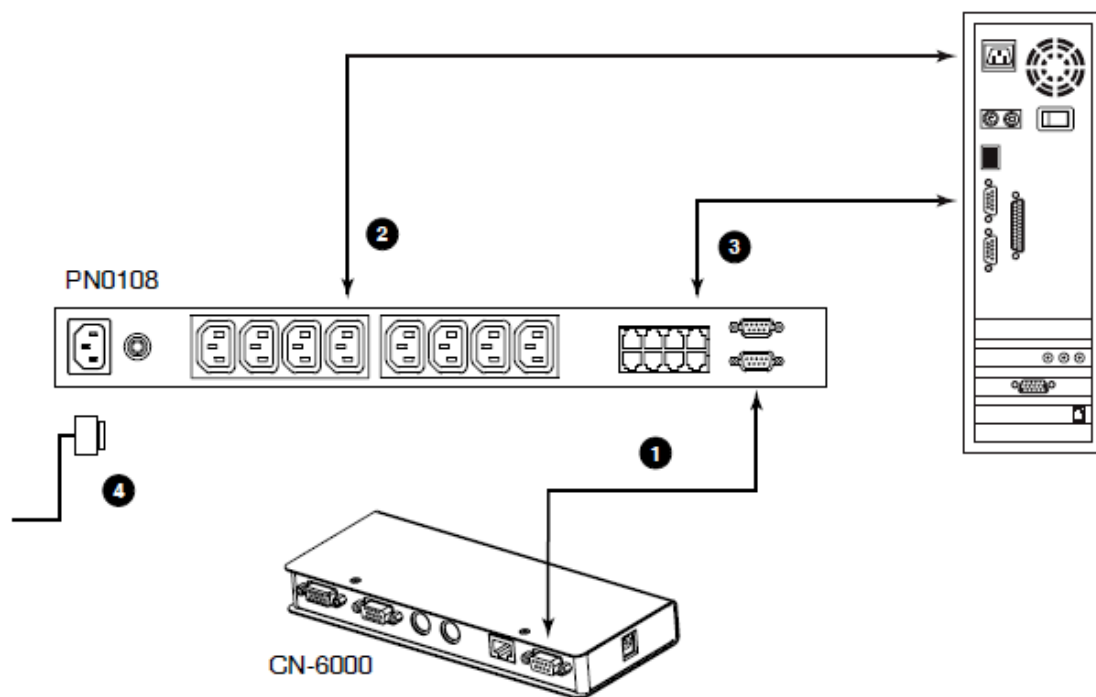
1. 製品同梱の PON ケーブルを PN0108 の PON IN ポートと CN-6000(または、その他の対応製品。詳細については p.80 参照)の PON(RS-232)ポートにそれぞれ接続してください。
2. 製品同梱の IEC60320 NEMA 変換ケーブルを使って、PN0108 の電源出力ポートとデバイスの AC 電源ケーブルを接続してください。電源コードの取り扱いについては p.13 の「電源コードに関する注意事項」を接続してください。
3. 接続するコンピュータの OS が Windows 98SE、ME、NT、2000、XP または Windows Server 2003 である場合、セーフシャットダウンを行うことができます。
セーフシャットダウン機能(オプションで利用可能)をご利用の場合、セーフシャットダウンケーブルをお使いのコンピュータのシリアルポートと PN0108 のセーフシャットダウンポートに接続してください。

注意:	コンピュータを接続する場合、そのコンピュータの電源ケーブルおよびシリアルケーブルを、同一番号の電源出力ポートとセーフシャットダウンポートにそれぞれ接続するようにしてください。
------------	---

4. 製品同梱の AC 電源コードを PN0108 の電源ソケットとコンセントに接続してください。電源コードに関する安全な取り扱い方法については p.13 の「電源コードに関する注意事項」をご参照ください。
5. PN0108 に電源を入れてください。
6. PN0108 に接続されたデバイスに電源を入れてください。

注意:	ユニットのリアパネルに取り付けられたケーブルを安全に配線するためにも、結束バンドやケーブルサポートバーをお使いになることを推奨します。
------------	---

接続図(単体使用時)

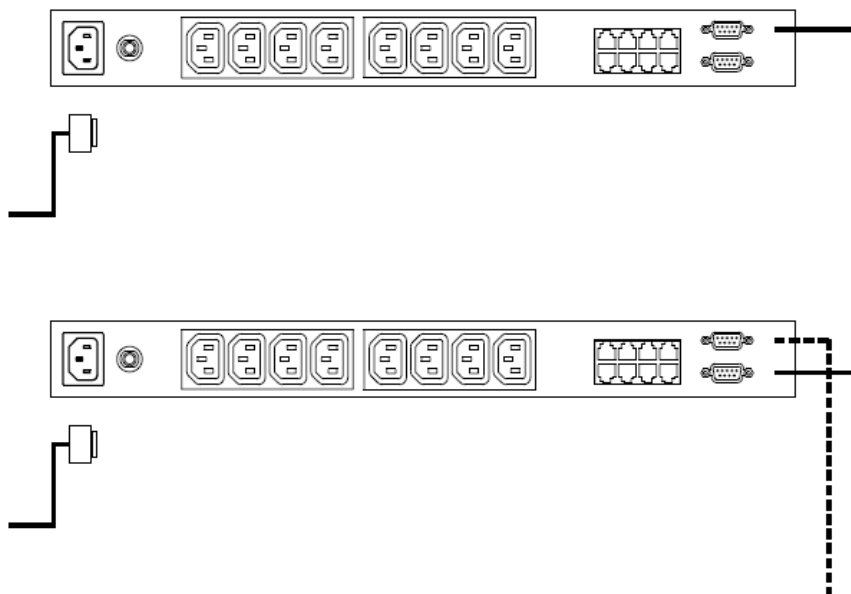


デジチェーン接続

電源管理の対象となるデバイスの台数が PN0108 のポート数を超える場合でも、最大で 15 台の PN0108 をデジチェーン接続することで対応が可能です。この場合、最大で 128 台のデバイスの電源管理を行うことができます。デジチェーン接続を行う場合は、以下の手順でセットアップしてください。

1. 製品同梱のデジチェーンケーブル (DB-9 メス-DB-9 オス) を使って、親機として使用する PN0108 の PON OUT ポートと、子機として使用する PN0108 の PON IN ポートを接続します。デジチェーンする製品が複数台ある場合は、必要な台数分作業を行ってください。
2. ケーブルの接続が完了したら、最上位の PN0108 から順に電源を入れていきます。電源を入れた PN0108 がステーション ID を認識し、ステーション ID を LED 表示したら、次のステーションに電源を入れてください。
1 台目の機器のステーション ID には **01**、2 台目には **02** というようにステーション ID が割り振られます。
3. 全てのステーションに電源が入ったら、PN0108 に接続されているデバイスに電源を入れてください。

接続図 (デジチェーン接続時)



第3章 ログイン

概要

PN0108 は様々な環境でお使いいただけるように、下記のとおり、複数のアクセス方法を提供しております。

- ◆ PN0108 対応 Over IP 製品 (p.80 参照) の Web メニューからのアクセス
- ◆ PN9108、SN0108/SN0116 の Web メニューからのアクセス
- ◆ ローカルコンピュータからのターミナルプログラム(ハイパーターミナル等)を使用したアクセス
- ◆ Java アプリケーション

以下のセクションでは、これらのアクセス方法の手順について説明します。

CN-6000 ブラウザメニューからのログイン

ログイン

CN-6000(または対応 KVM スイッチ)経由での PN0108 のリモート操作はブラウザベースで行い、Web メニューにあるアイコンをクリックし、Java プログラムを起動することでご利用いただけます。

例えば、CN-6000 の Web ページからインターフェースを起動することによって PN0108 にアクセスするといった使い方も可能です。

-
- 注意:**
1. この機能をご利用になる場合、お使いのブラウザが 128 ビット SSL 暗号化通信に対応している必要があります。
 2. お使いのコンピュータには Java1.4 以降がインストールされている必要があります。Java は Sun Java の Web サイトから無料でダウンロードできます。
<http://java.sun.com>
-

1. ブラウザの URL バーに、PN0108 が接続されている CN-6000 の IP アドレスを入力してください。(IP アドレスがご不明の場合は CN-6000 の管理者までお問い合わせください。)
2. 「セキュリティの警告」ダイアログが表示されますが、本製品の証明書は信頼できるものですので、これを受け入れてください。(詳細は p.82「信頼された証明書」を参照) 以下のようなログイン画面が表示されます。



3. CN-6000 の管理者によって設定された正しいユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」ボタンを押してください。
4. ログインが完了すると、左側に「Power Management」アイコンが表示されます。



5. 「Power Management」アイコンをクリックすると、「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示され、ダウンロードファイルである PowerMan.jar の扱いについて選択を求められます。このファイルはブラウザから直接実行する（「ファイルのダウンロード」ダイアログで「開く」ボタンをクリックする）ことも可能ですし、お使いのコンピュータに一旦保存して実行することも可能です。お使いの環境で特に不都合がない場合は、このファイルをブラウザから直接実行してください。
6. このツールをディスクに一旦保存してから実行する場合、CN-6000 の Web ページを開いたままにして、先ほど PowerMan.jar を保存したフォルダに移動し、アイコンをダブルクリックするか、以下のコマンドを実行してプログラムを起動してください。

```
java -jar PowerMain.jar
```

7. PowerMan.jar が起動すると、以下のようなログインダイアログボックスが表示されます。

A screenshot of a login dialog box titled "PN0108 Login". It contains two input fields: "Username:" and "Password:". Below the fields are two buttons: "Login" and "Reset". At the bottom of the dialog is the "ALTUSCN" logo with the tagline "Connect Without Limits™".

PN0108 の管理者によって設定された、有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」ボタンをクリックして処理を続行してください。

注意: アドミニストレーターで初期ログインを行う場合は、以下のユーザーネームとパスワードを使用してください。

デフォルトユーザーネーム: administrator

デフォルトパスワード: password

PN0108 のセキュリティのためにも、新しいアドミニストレーターユーザーを作成し、このアカウントを削除するようにしてください。(p.51「System Setup」参照)

PN0108 の操作方法は第 4 章で詳しく説明しますので、そちらをご参照ください。

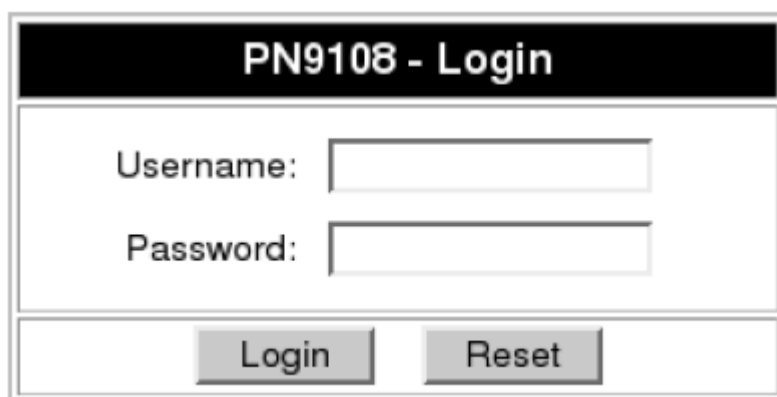
PN9108 ブラウザメニューからの操作

ログイン

PN9108 経由による PN0108 のリモート操作はブラウザベースで行い、PN9108 の Web ページにログインした後、PN9108 のデバイス選択リストから PN0108 を選択することで PN0108 にアクセスできます。

注意: ここで使用する Web ブラウザは 128 ビット SSL 暗号化通信に対応している必要があります。

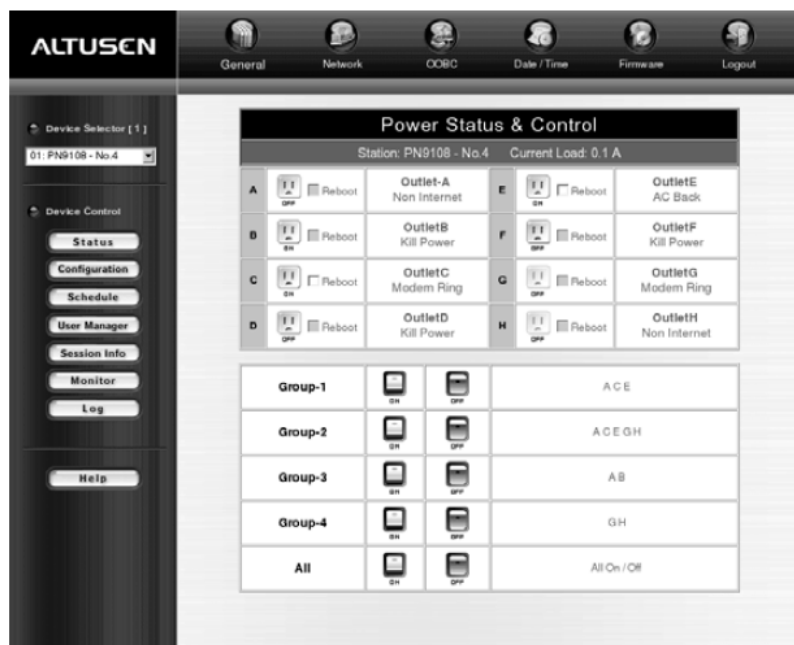
1. ブラウザの URL バーに、アクセス対象となる PN0108 が接続されている PN9108 の IP アドレスを入力します。(PN9108 の IP アドレスがご不明の場合には、PN9108 の管理者までお問い合わせください)
2. 「セキュリティの警告」ダイアログが表示されますが、本製品の証明書は信頼できるものですので、これを受け入れてください。(詳細は p.82「信頼された証明書」を参照)
3. PN9108 に接続すると、以下のようなログイン画面が表示されます。

The image shows a web browser window displaying the login page for PN9108. The title bar of the browser window is black with the text "PN9108 - Login" in white. The main content area has a white background. It features two input fields: the first is labeled "Username:" and the second is labeled "Password:". Below these fields are two buttons: "Login" and "Reset". The "Login" button is highlighted with a grey border and a slight shadow.

4. PN9108 の管理者によって設定された正しいユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」ボタンを押してください。

PN9108 メイン画面

ログインに成功すると、下図のような PN9108 のメイン画面が表示されます。



アクセス対象となる PN0108 を、このページの左上にある「Device Selector」リストから選択してください。



PN0108 の操作手順については第 4 章で詳しく説明しますので、そちらをご参照ください。

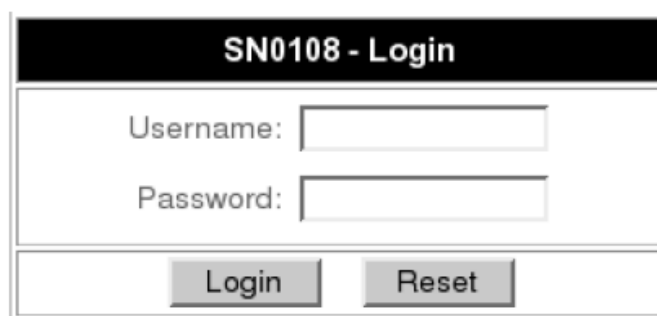
SN0108/SN0116 ブラウザメニューからの操作

ログイン

SN0108/SN0116 経由による PN0108 のリモート操作はブラウザベースによって行われますので、最初に SN0108/SN0116 の Web ページにログインする必要があります。ログインの手順は以下のとおりです。

-
- 注意:**
1. ここで使用する Web ブラウザは 128 ビット SSL 暗号化通信に対応している必要があります。
 2. PN0108 が接続している SN0108/SN0116 のポートには、以下のポートパラメータが設定されている必要があります。
ビット/秒 : 384000 データ ビット : 8 パリティ : なし
ストップ ビット : 1 フロー制御 : なし
-

1. ブラウザの URL バーに、アクセス対象となる PN0108 が接続されている SN0108/SN0116 の IP アドレスを入力します。(SN0108/SN0116 の IP アドレスがご不明の場合には、SN0108/SN0116 の管理者までお問い合わせください)
2. 「セキュリティの警告」ダイアログが表示されますが、本製品の証明書は信頼できるものですので、これを受け入れてください。(詳細は p.82「信頼された証明書」を参照)
3. SN0108/SN0116 に接続すると、以下のようなログイン画面が表示されます。



The image shows a web browser window with a black header bar containing the text "SN0108 - Login" in white. Below the header, there are two input fields: "Username:" followed by a text box, and "Password:" followed by a text box. At the bottom of the form, there are two buttons: "Login" and "Reset".

4. SN0108/SN0116 の管理者によって設定された正しいユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」ボタンを押してください。

SN0108/SN0116 メイン画面

ログインに成功すると、下図のような SN0108/SN0116 のメイン画面が表示されます。

The screenshot displays the ALTUSEN web interface. On the left is a vertical sidebar with buttons: Status, Telnet (highlighted with a red circle), Port Config, User Manager, Sessions Info, Sys Info, Log, and Help. The top navigation bar includes icons and labels for General, Network, Radius, DOBC, Date/Time, Firmware, and Logout. The main content area is titled 'Serial Port Status' and contains a table with 7 columns: Port Number, Port Name, Status, TCP Port, Tx Bytes, Rx Bytes, and Online. The table lists 10 ports (COM1 to COM10). COM4 is the only port with a status of '-' and is marked as 'On' in the Online column, with 96 Tx Bytes and 14941 Rx Bytes. All other ports are marked as 'Off' in the Online column.

Port Number	Port Name	Status	TCP Port	Tx Bytes	Rx Bytes	Online
COM1	Console	-	5001	4153407	0	Off
COM2	COM2		5002	0	0	Off
COM3	COM3	-	5003	0	0	Off
COM4	Mandrake Linux	-	5004	96	14941	On
COM5	COM5	-	5005	0	0	Off
COM6	COM6	-	5006	0	0	Off
COM7	COM7	-	5007	0	0	Off
COM8	COM8	-	5008	0	0	Off
COM9	COM9	-	5009	0	0	Off
COM10	COM10	-	5010	0	0	Off

PN0108 には Telnet 経由でアクセスします。

1. 「Telnet」ボタンを押して、「Telnet Selection」画面を表示してください。

Telnet Selection			
Select	Port Number	Port Name	TCP Port
☐	Local	-	23
☐	COM2	COM2	5002
☐	COM3	COM3	5003
☐	COM4	COM4	5004
☐	COM5	COM5	5005
☐	COM6	COM6	5006
☐	COM7	COM7	5007
☐	COM8	COM8	5008
☐	COM9	COM9	5009
☐	COM10	COM10	5010
☐	COM11	COM11	5011
☐	COM12	COM12	5012
☐	COM13	COM13	5013
☐	COM14	COM14	5014
☐	COM15	COM15	5015
☒	COM16	PN0108	5016

2. PN0108 が接続しているポートを選択してください。

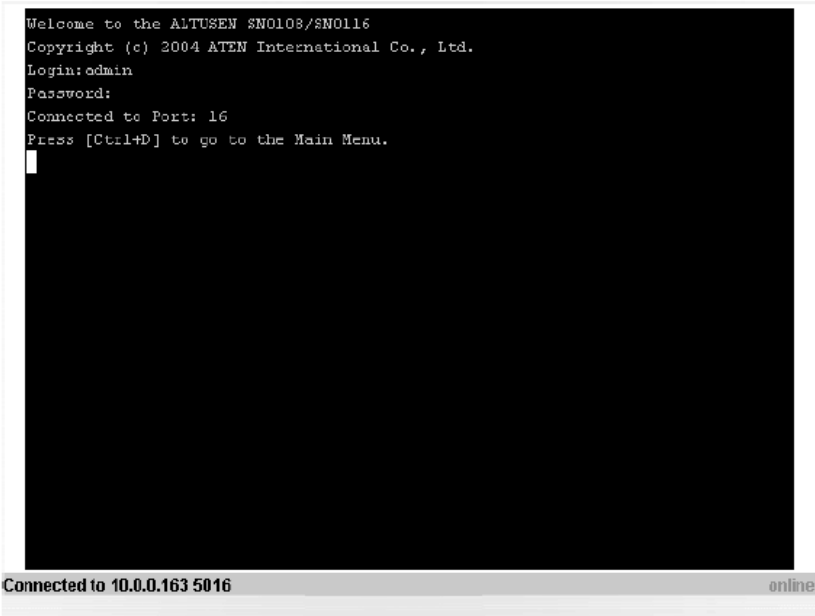
-
- 注意:**
1. ポートに接続するためには、ポートへの接続権限が必要です。ポートの権限は SN0108/SN0116 の管理者によって設定されていますので、詳細は担当の方にお問い合わせください。
 2. ポート操作の履歴を表示したい場合は、「View History」ボタンをクリックしてください。そのポートに接続されているデバイスにおける Telnet の処理状況を画面で表示します。Telnet のページに戻る場合は、ブラウザの「戻る」ボタンを使用してください。
-

3. 「Connect」ボタンをクリックしてください。SN0108/SN0116 は Telnet による接続を開始し、お使いのモニタに以下のような画面を表示します。



```
Welcome to the ALTUSEN SN0108/SN0116
Copyright (c) 2004 ATEN International Co., Ltd.
Login:
Connected to 10.0.0.163 5016 online
```

4. SN0108/SN0116 で有効なユーザーネームとパスワードでログインしてください。ログインに成功すると、デバイスとの Telnet 接続が確立します。



```
Welcome to the ALTUSEN SN0108/SN0116
Copyright (c) 2004 ATEN International Co., Ltd.
Login:admin
Password:
Connected to Port: 16
Press [Ctrl+D] to go to the Main Menu.
Connected to 10.0.0.163 5016 online
```

5. Telnet プロンプトで「??」と入力すると、PN0108 のメニューが表示されます。

```
*****
*****
**                                **
**          ALTUSEN -- PN0108 Power Manager          **
**                                **
*****
1. PN0108RPSwitch
T. Set System Time
X. Exit
====>
```

上の画面で **1** を選択すると、PN0108 の設定・操作メニューに切り替わります。これらは、ブラウザメニューの設定・操作機能テキストベースで実現したものです。
このメニューで提供される機能は、ブラウザ版と同じですので、機能の詳細については第 4 章に記載されているブラウザ版の内容をご参照ください。

-
- 注意:**
1. ブラウザ版メニューでは、多くのサブメニューへのアクセスが、アドミニストレータあるいは設定権限を持ったユーザーに限られています。権限のないメニューを操作しても、ご利用になれませんのでご注意ください。
 2. 一部の機能には「Exit (終了)」メニューがない場合があります。このとき、前のメニューに戻る場合には、メニュー内で何も変更を加えず、**[Enter]** キーを押してください。
 3. セッションが有効である限り、このメインメニューは常に呼び出すことが可能です。
-

セッションを終了する場合は、メインメニューを起動し、「X」を押してログアウトしてください。

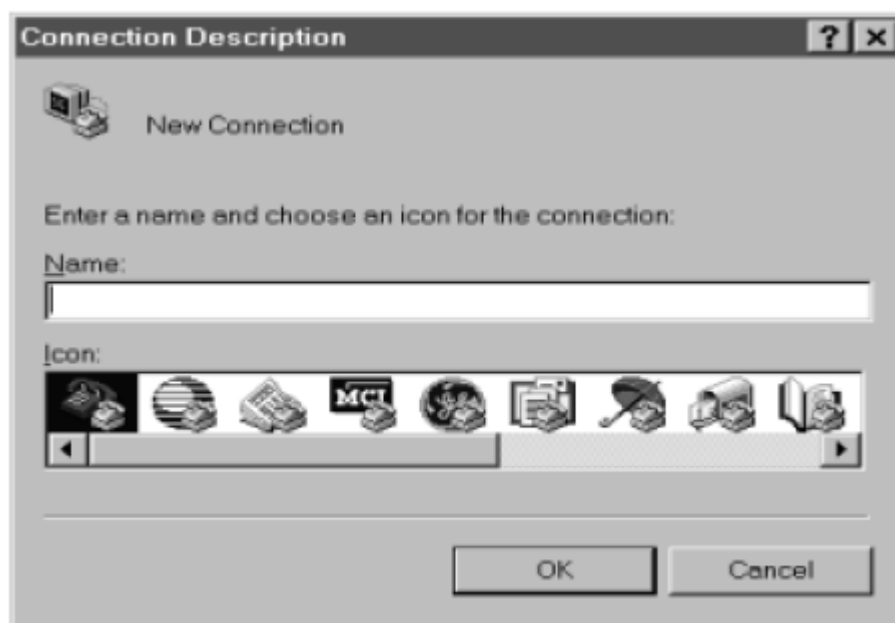
ローカルコンソール操作

ローカルコンソール操作は、ハイパーターミナル等の VT100 ターミナルプログラムや、製品同梱のソフトウェア CD に収録されている Java アプリケーションを用いて行うことができます。

ハイパーターミナル

1. 製品同梱のデジチェーン用ケーブルで、お使いのコンピュータの COM ポートと PN0108 の RS-232 ポートを接続してください。(必要であれば、p.28 の接続図をご参照ください)
2. お使いのコンピュータで、以下の手順でハイパーターミナルを起動してください。
[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [通信] - [ハイパーターミナル]

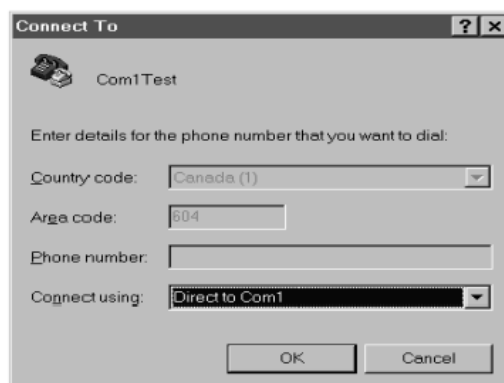
以下のような画面が表示されます。



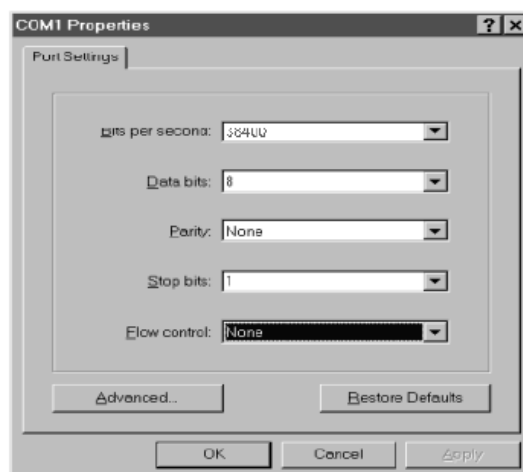
3. 接続につける名前を、「名前」の欄に入力してください。(ここでは「Com1Test」という名前を使用します。)この接続を表すアイコンを下のリストから選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。

注意: これ以降、本マニュアルでは、ハイパーターミナルの設定例として、COM1ポートと「Com1Test」という接続名を使用して説明していきます。実際に設定する場合は、この部分をお使いの環境に適宜置き換えて作業を進めてください。

「OK」ボタンをクリックすると、以下のようなダイアログボックスが表示されます。



4. 「接続方法」リストから、通信に使用する COM ポートを選択してください。(例えば、お使いのコンピュータで COM1 をご利用の場合、「COM1」を選択します。)COMポートを選択したら、「OK」ボタンをクリックしてください。下図のようなポート設定ダイアログボックスが表示されます。



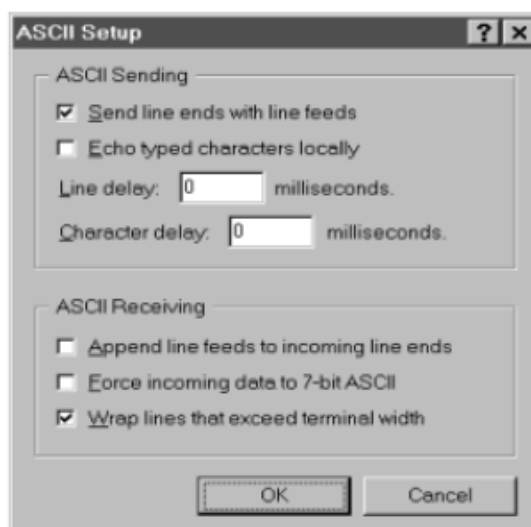
5. PN0108 のシリアルポートとコンピュータの COM ポートは同じ内容で設定しなければなりません。設定に相違点が見られる場合はこのダイアログボックスで設定内容を変更し、「OK」ボタンを押してください。

注意: PN0108 のデフォルト設定は p.35 に記載されていますので、そちらをご参照ください。

6. ハイパーターミナルの画面が表示されたら、メニューバーから[ファイル]―[プロパティ]を選択し、「Com1Test のプロパティ」ダイアログを表示して、「設定」タブを開いてください。



7. 必要であれば、お使いの環境における設定内容を上図の内容に変更し、「ASCII 設定」ボタンをクリックし、「ASCII 設定」ダイアログを表示します。



8. 必要であれば、お使いの環境における設定内容を上図の内容に変更し、「OK」ボタンをクリックしてください。
9. ハイパーターミナルのウィンドウを終了するとダイアログが表示され、接続終了の可否を問うメッセージが表示されますので、接続を終了する場合は「はい」を選択してください。また、この接続に関する設定内容の保存の可否を問うダイアログが表示された場合も、同様に「はい」を選択してください。

これでハイパーターミナルのセットアップは終了です。Windows NT、2000、XP、および Windows Server 2003 をお使いの環境では、PN0108 への接続用に作成されたハイパーターミナルのアイコンはデスクトップ上に作成されます。Windows 98 または ME をお使いの環境では、アイコンが作成されませんので、Windows のスタートメニューからハイパーターミナルをご利用ください。

ログイン

1. デスクトップにあるハイパーターミナルのアイコンをダブルクリックしてください。
2. VT100 ターミナルウィンドウで以下の文字列を入力してください。
???
この文字列を入力すると、ログインプロンプトが表示されます。
3. ユーザーネームとパスワードを入力し、PN0108 のメインメニューを起動してください。

Java アプリケーション

このアプリケーションをご利用になる場合、PN0108 に接続しているコンピュータに Java Runtime Environment(JRE) 1.4.0 以降のバージョンのものがインストールされている必要があります。お使いのコンピュータにこのバージョンの Java がインストールされていない場合は、Sun Java の Web サイトから最新版の JRE をダウンロードし、インストールしてください。

Windows におけるセットアップ

このアプリケーションでは Windows 版 Java Communication API を使用します。これらのファイルは製品同梱のソフトウェア CD に同梱されており、ご利用いただく前に、お使いの JRE フォルダのサブフォルダにコピーしなければなりません。手順は以下のとおりです。

1. comm.jar を (JRE インストールフォルダ)¥lib¥ext にコピーしてください。
(例:C:¥Program Files¥Java¥j2re1.4.2_06¥lib¥ext)
2. win32com.dll を (JRE インストールフォルダ)¥bin にコピーしてください。
3. javax.comm.properties を (JRE インストールフォルダ)¥lib にコピーしてください。
4. Java クライアントプログラム(PowerMain.jar)をお使いのコンピュータの適当な場所にコピーしてください。

アプリケーションの起動

1. 製品同梱のデージーチェーンケーブルを、お使いのコンピュータの COM ポートと PN0108 の RS-232 ポートに接続してください。(必要であれば、p.28 の接続図をご参照ください。)
2. コマンドプロンプト(DOS プロンプト)を起動してください。
3. コマンドプロンプトで PowerMain.jar があるフォルダに移動してください。
4. 以下のコマンドを実行してください。

```
java -jar powerman.jar
```

PN0108 のログインダイアログボックスが表示されます。

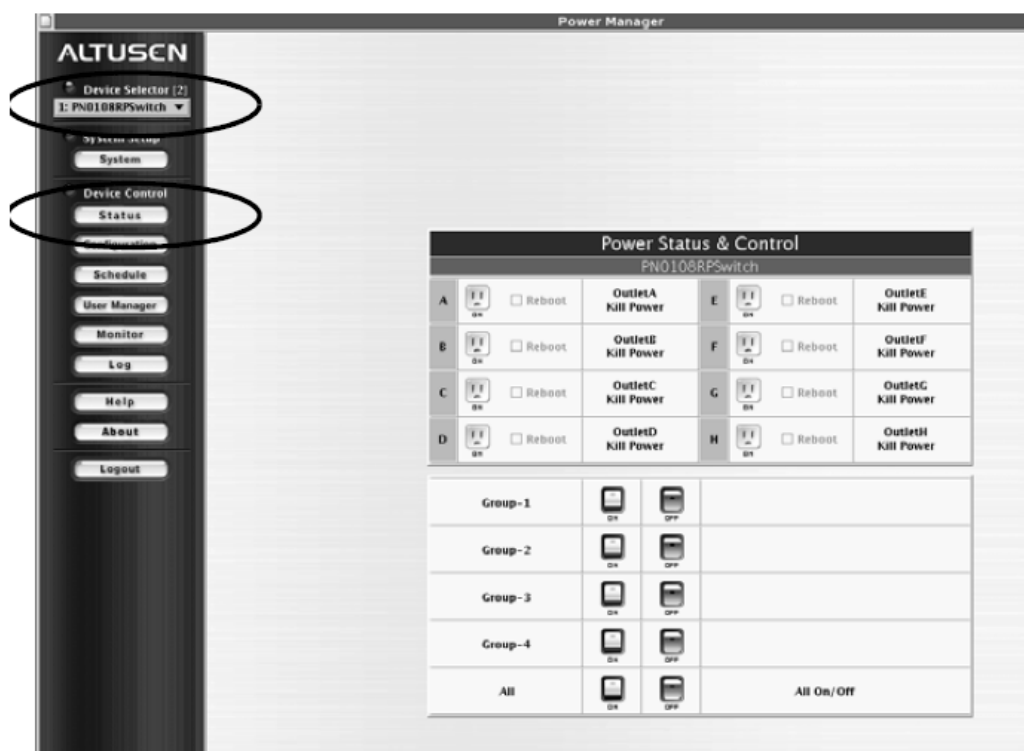
A screenshot of the PN0108 Login dialog box. The title bar is black with white text "PN0108 Login". Below the title bar, there are two input fields: "Username:" and "Password:". Below the input fields, there are two buttons: "Login" and "Reset". At the bottom of the dialog box, there is a logo for "ALTUSCN" with the tagline "Connect Without Limits™" below it.

5. PN0108 に有効なユーザーネームとパスワードでログインしてください。

第4章 操作方法

PN0108 メイン画面

ログインに成功すると、以下のような PN0108 メイン画面が表示されます。



- ◆ 最初に起動すると、1 台目のステーションの「Power Status & Control」メニューが画面中央に表示されます。PN0108 に接続されたデバイスの電源管理操作はこの画面で行います。
- ◆ 画面左側には、PN0108 の設定・操作メニューボタンが提供されています。一般のユーザーは、「Device Selector」リストと、「Status」ボタンを使って、操作権限のあるデバイスの電源を管理・操作することができます。それ以外のボタンは、アドミニストレーター専用のメニューです。アドミニストレーターが操作可能な機能については第 5 章で説明します。

Device Selector

PN0108は最大16台のデジーチェーン接続に対応しておりますので、このリストにはお使いの構成のステーションが一覧表示されます。「Device Selector」というタイトルの横にあるカッコ内の数字は、お使いの構成におけるステーションの合計を表しています。

ステーションの名前はタイトルの下にあるリストボックスに表示されます。ステーションを選択する場合は、リストの矢印部分をクリックしてリストをドロップダウンさせ、操作対象となるステーションを選択してください。ステーションを選択すると、そのステーションの内容を表す「Power Status & Control」メニューが画面中央に表示されます。



-
- 注意:**
1. PN0108 のステーション ID はフロントパネルのステーション ID LED パネルに表示されます。(p.22「ステーション ID LED」参照)
 2. 「Power Status & Control」画面の電源は、「Device Selector」で選択されたステーションにのみ有効ですので、複数のステーションにまたがる電源を同一画面で操作することはできません。
-

Device Control

「Status」ボタンを除いた、「Device Control」パネルにあるボタンは、アドミニストレーターが「Device Selector」パネルで現在選択されているステーションに関する電源管理オプションを設定する際に使用します。これらの機能については第 5 章で詳しく説明しますので、そちらをご参照ください。

「Status」ボタンをクリックすると、現在選択されているデバイス(上記「Device Selector」参照)の「Power Status」画面が起動します。「Power Status」画面については次のセクションで説明します。



Power Status 画面

上部パネル

Power Status & Control					
PN010GRPSwitch					
A	 ☐ Reboot	OutletA Kill Power	E	 ☐ Reboot	OutletE Kill Power
B	 ☐ Reboot	OutletB Kill Power	F	 ☐ Reboot	OutletF Kill Power
C	 ☐ Reboot	OutletC Kill Power	G	 ☐ Reboot	OutletG Kill Power
D	 ☐ Reboot	OutletD Kill Power	H	 ☐ Reboot	OutletH Kill Power

電源ソケット

「Power Status」画面の上部パネルには PN0108 リアパネルの A～H の電源出力ポートに対応した電源情報が表示されます。

各電源出力ポートの表示欄は、対応する電源出力ポートの電源ボタンとして機能するソケットアイコンと、電源情報から構成されます。ソケットアイコンをクリックすると、その電源出力ポートに接続されたコンピュータの電源を ON または OFF に切り替えます。電源の状態はアイコンで表示されます。詳細は以下のとおりです。

表示	状態
グレーに点灯	電源出力ポートへの電源が OFF になっていることを表します。
グレーに点滅	電源出力ポートへの電源が OFF になっていますが、「Modem Ring Resume」がリモート電源オプションとして指定されていることを表します。 (詳細に関しては p.53 の「Modem Ring Resume」をご参照ください。)
黄色に点滅	電源出力ポートが電源の状態を変更中であることを表します。(詳細に関しては p.53 の「Modem Ring Resume」および「System after AC back」をご参照ください。)
琥珀色に点灯	電源出力ポートへの電源が ON になっていることを表します。
電球マークが点灯	電源出力ポートが過電流状態になっている、または、リレーに失敗したことを表しますので、アイコンをクリックして復旧させてください。ポートの復旧が成功すると、失敗する前の状態に戻り、アイコンが復旧後の状態であることを表します。ポートが復旧できない場合は、弊社技術サポートまでご連絡ください。

「Reboot」が有効になっている(項目にチェックが入っている)場合、ソケットアイコンをクリックし OFF にすると、そのアイコンに対応する電源出力ポートに接続されているコンピュータはシャットダウンではなく、リブートを行います。電源出力ポートがセーフシャットダウン可能なオプションに設定されていない場合、この項目は無効(グレー)になります。この機能の詳細に関しては p.52「Configuration」をご参照ください。

注意: この機能はセーフシャットダウンが可能なコンピュータでのみ有効です。詳細は、p.27 の「単体使用」の手順 3 および p.62 の「概要」をご参照ください。

電源情報パネル

ソケットアイコンパネルの隣にある電源情報パネルには、電源出力ポート名と現在選択されている電源オプションが表示されます。これらのパラメータはアドミニストレーターによって「Configuration」機能を使って設定されます。(詳細は p.52「Configuration」参照)

下部パネル

Group-1			
Group-2			
Group-3			
Group-4			
All			All On/Off

下部パネルでは、お使いの電源出力ポートにおける電源状態をグループで管理することができます。

電源出力ポートをグループ分けすることによって、電源の ON/OFF の操作をグループ単位で行うことができるようになります。そのグループの ON または OFF の電源ボタン(ロッカースイッチアイコン)をクリックすることで、各電源出力ポートに対してアドミニストレーターが設定した電源操作を実行することができます。

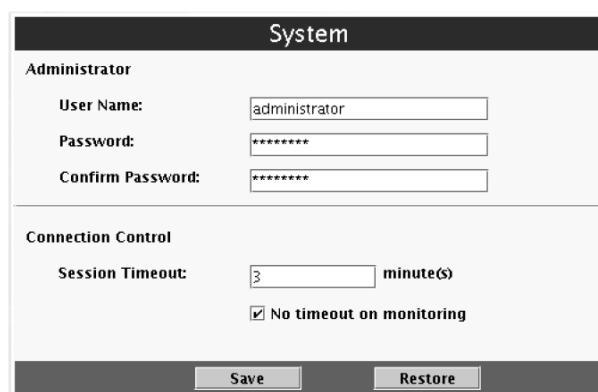
-
- 注意:**
1. この機能をご利用になるには、グループ内の全てのポートに対し操作権限があることが必須条件です。グループ内に操作権限のないポートが 1 つでもあると、電源ボタンのアイコンをクリックしても無効となりますので、ご注意ください。
 2. グループ内に ON の状態のコンピュータと OFF の状態のコンピュータが混在している場合に OFF ボタンをクリックすると、電源の状態にかかわらず、すべてのポートの電源が OFF に切り替わります。同様に ON をクリックすると、全てのポートの電源が ON に切り替わります。
-

電源出力ポートグループの作成と設定に関する詳細は、「Administration」の章の「Configuration」セクション(p.52)で説明しますので、そちらをご参照ください。

第5章 管理方法

System Setup

画面左側にある「System Setup」パネルにある「System」ボタンをクリックすると、下図のような System メニューが表示されます。



Administrator

このセクションではアドミニストレーターのログインネームとパスワードを設定します。セキュリティ上の観点からも、このデフォルトアカウントを変更されることを強く推奨します。ユーザーネーム、パスワードともに、4～15 文字の半角英数字で設定が可能です。

Connection Control

- ◆ 「Session Timeout」の項目では、タイムアウトの値を設定します。ここで設定された時間、ログインしているユーザーから PN0108 に対して操作がない場合、そのユーザーは自動的にログアウトし、PN0108 とのセッションは終了します。この項目に対して有効な値の範囲は 2～99 分、デフォルト値は 3 分です。
- ◆ 「No timeout on monitoring」の項目が有効になっている場合、モニタ機能で PN0108 における電源状況を監視している時にシステムはタイムアウトしません。（詳細は p.59「Monitor」参照）

Device Control

画面左側にある「Device Control」パネルでは、アドミニストレーターがPN0108の電源管理に関するパラメータを設定することができます。各ボタンの機能に関しては、以下のセクションで説明していきます。

注意: お使いの PN0108 をデイジーチェーン接続してお使いの場合、ステーション毎にセットアップを行う必要があります。

Configuration

「Configuration」ボタンをクリックすると、以下のような Configuration メニューが表示されます。

Configuration

Station: PN0108RPSwitch F/W Ver: 1.6.152

Station Name

PN0108RPSwitch

Outlet	Name	Modem Ring Resume	System After AC	Kill the Power	Confirmati... Required	Power On Delay	Power Off Delay
A	OutletA	☐	☐	☒	☐	0 sec	0 sec
B	OutletB	☐	☐	☒	☐	0 sec	0 sec
C	OutletC	☐	☐	☒	☐	0 sec	0 sec
D	OutletD	☐	☐	☒	☐	0 sec	0 sec
E	OutletE	☐	☐	☒	☐	0 sec	0 sec
F	OutletF	☐	☐	☒	☐	0 sec	0 sec
G	OutletG	☐	☐	☒	☐	0 sec	0 sec
H	OutletH	☐	☐	☒	☐	0 sec	0 sec

Outlet Groups

Group	Name	Outlets in Each Group							
Group-1	Group-1	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E	☐ F	☐ G	☐ H
Group-2	Group-2	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E	☐ F	☐ G	☐ H
Group-3	Group-3	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E	☐ F	☐ G	☐ H
Group-4	Group-4	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E	☐ F	☐ G	☐ H

Save

Outlet Configuration

Configuration メニューの上部パネルでは、各電源出力ポートに対する電源管理の設定を行うことができます。また、これらの設定項目では、ソケットアイコンを ON または OFF に切り替えた際に、その電源出力ポートに対してどのようなアクションを実行するかも定義できます。各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	内容
Station Name	複数台の PN0108 を導入し、デイジーチェーン接続してお使いの環境でも便利にお使いいただけるよう、各ステーションに固有の名前をつけることができます。ステーションに名前をつける場合は、半角英数字 15 文字以内でこの項目を設定してください。
Outlet Name	各電源出力ポートにも固有の名前をつけることができます。電源出力ポートに名前をつける場合は、半角英数字 15 文字以内でこの項目を設定してください。
Modem Ring Resume*	セーフシャットダウン/リブート機能のオプションです。(第 6 章参照) このオプションが選択されている場合、電源出力ポートのソケットアイコンが OFF に変更されると、コンピュータを再起動するまで PN0108 は「Power Off Delay」の項目(下記参照)に設定された秒数待機します。そのアクションが待機している間、フロントパネルの LED は点滅します。 注意: - このオプションが選択されている場合、コンピュータの電源が OFF になっても、電源は電源出力ポートに供給されます。したがって、コンピュータはローカル操作で電源を ON または OFF にすることができます。このとき、コンピュータの状態と「Outlet Status」の表示内容が一致しないことがありますが、この場合、ソケットアイコンはグレーに点滅しています。コンピュータの実際の状態と表示内容を一致させたい場合は、3 回このアイコンをクリックしてください。 - この機能を有効にしたにもかかわらず、再起動時に問題が発生した場合は、p.79「トラブルシューティング」の「問題 5」の項目をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

項目	内容
System after AC back*	セーフシャットダウン機能のオプションです。(p.62「概要」参照)このオプションが選択された場合、電源出力ポートのソケットアイコンが OFF に変更されると、PN0108 は、その電源出力ポートに接続されたコンピュータでセーフシャットダウンを実行するまで、「Power Off Delay」の項目(下記参照)で設定された秒数待機します。 ソケットアイコンが ON にクリックされたときも同様に、PN0108 はその電源出力ポートに接続されているコンピュータでリブートを行うまで、「Power On Delay」の項目で設定された秒数待機します。 注意:このオプションが選択されると、電源出力ポートに電源は供給されません。セーフシャットダウンは実行されますが、コンピュータには電源出力ポートから電源が供給されません。
Kill the Power	このオプションが選択されると、ソケットアイコンを使って電源を OFF にした際に、実際に電源が OFF になるまで、「Power Off Delay」の項目で設定された秒数待機します。電源を OFF に切り替えると、コールドシャットダウン(安全でないシャットダウン)を実行します。このオプションを選択すると、メイン画面で「Reboot」の項目にチェックが入っていても無効になります。
Confirmation Required	このオプションが有効になると、処理を実行する前に確認ダイアログが表示されます。この項目にチェックが入っていない場合、ユーザーに確認をとることなく処理が行われますので、ご注意ください。
Power On Delay	ソケットアイコンがクリックされてから、その電源出力ポートに接続されたコンピュータに電源が入るまでに PN0108 が待機する時間を設定します。
Power Off Delay	ソケットアイコンがクリックされてから、その電源出力ポートに接続されたコンピュータの電源が切れるまでに PN0108 が待機する時間を設定します。 「System after AC Back」が選択されている場合、遅延時間が経過すると、PN0108 は更に 15 秒待機してからコンピュータをシャットダウンします。 最小(デフォルト)遅延時間は 15 秒、最大遅延時間は 999 秒です。

お使いの設定を保存する場合は、「**Save**」ボタンをクリックしてください。変更内容を保存せずに終了する場合は、お使いの Web ブラウザの「戻る」ボタンで Web ページのメイン画面に戻るか、左側のフレームから別のメニューボタンをクリックしてください。

-
- * 「Modem Ring Resume」および「System after AC Back」の各オプションは、セーフシャットダウンに対応したコンピュータでのみご利用いただけます。詳細に関しては、p.27 の「単体使用」の手順 3、および第 6 章の「セーフシャットダウン/リブート」をご参照ください。
-

Outlet Groups

「Outlet Groups」の機能を利用すると、電源管理アクションを、同一グループで一括して行うことができます。各ステーションで、最大 4 つの電源出力ポートグループを定義することができ、それぞれのグループには固有の名前をつけることができます。グループ名は最大 15 文字の半角英数字で定義してください。

Configuration メニューの下部にある Outlet Groups で、グループ分けの対象となる電源出力ポートを選択して、グループを定義します。

Outlet Groups									
Group	Name	Outlets in Each Group							
Group-1	Group-1	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E	☐ F	☐ G	☐ H
Group-2	Group-2	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E	☐ F	☐ G	☐ H
Group-3	Group-3	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E	☐ F	☐ G	☐ H
Group-4	Group-4	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E	☐ F	☐ G	☐ H
Save									

電源出力ポートグループを定義する場合、「Name」欄にグループ名を入力し、グループとして管理する電源出力ポートにチェックを入れてください。

注意： 電源出力ポートは複数のグループにまたがって登録することも可能で、例えば、グループ 1 に電源出力ポート A、B、C、D を登録し、グループ 2 に電源出力ポート B、D、E、G、H を登録するといったこともできます。

変更内容の確定

- ◆ 変更内容を保存する場合は「Save」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 保存が完了した後、この画面での作業を終了する場合は、「Device Control」パネルにある「Configuration」以外のボタンを押してください。
- ◆ 変更内容を保存せず、処理を中止する場合は、「Save」ボタンを押さずに、「Device Control」パネルにある「Configuration」以外のボタンを押してください。

Schedule

Date	Enable/Disable	Shutdown Time (HH:MM)	Restart Time (HH:MM)
MON	☐	0 : 0	0 : 0
TUE	☐	0 : 0	0 : 0
WED	☐	0 : 0	0 : 0
THU	☒	17 : 15	17 : 16
FRI	☐	0 : 0	0 : 0
SAT	☐	0 : 0	0 : 0
SUN	☐	0 : 0	0 : 0

Schedule メニューでは、各電源出力ポートに対して、電源 ON/OFF のタスクを決められた時刻に自動実行することができます。このスケジュール機能をご利用の場合は、以下の手順で操作してください。

1. 上図の上の部分にあるボタン(「OutletA」～「OutletH」)のうち、スケジュールを定義したい電源出力ポートグループのボタンを押します。
2. 指定曜日におけるスケジュールを有効にする場合は、該当する曜日の「Enable/Disable」チェックボックスにチェックを入れてください。
3. 「Shutdown Time」にはコンピュータを自動的にシャットダウンする時刻を、また、「Restart Time」にはコンピュータを自動的に起動する時刻をそれぞれ入力してください。
4. 「Save」ボタンをクリックしてください。
5. 他にもタスクのスケジュールの定義を行う場合は手順 1～手順 4 の操作を繰り返してください。

変更内容の確定

- ◆ 変更内容を保存した後、この画面での作業を終了する場合は、「Device Control」にある「Schedule」以外のボタンをクリックしてください。
- ◆ 変更内容を保存しない場合は、「Save」ボタンを押さずに「Device Control」にある「Schedule」以外のボタンをクリックしてください。

User Management

User Management									
Station: PN0108RPSwitch									
Username	Password	A	B	C	D	E	F	G	H
rjf111	*****	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒
alice	*****	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒
sandy	*****	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐
archibald	*****	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒
Save									

User Manager メニューで、アドミニストレーターは各ユーザーが PN0108 へのログインの際に必要なユーザーネームとパスワードを設定することができます。ユーザーネーム、パスワードともに、半角英数字 4～15 文字で定義されます。

また、アドミニストレーターは、このメニューで、各ユーザーが操作可能な電源出力ポートを定義することもできます。A～H 列にあるチェックボックスは各電源出力ポートに対応しており、チェックを入れることでその電源出力ポートの操作を許可します。

変更内容の確定

- ◆ 変更内容を保存する場合は、「**Save**」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 変更内容を保存した後、このページでの操作を終了する場合は、「Device Control」にある「User Manager」以外のボタンをクリックしてください。
- ◆ 変更内容を保存しない場合は、「Save」ボタンを押さずに、「Device Control」にある「User Manager」以外のボタンをクリックしてください。

Monitor

Device Monitor								
ID	Name	Outlet Status						
		A	B	C	D	E	F	G
01	PN0108RPSwitch							
02	PN0108RPSwitch							

Device Monitor メニューでは、現在お使いの PN0108 の構成における、すべての電源出力ポートの状態が表示されます。このメニューによって、ユーザーはどのコンピュータの電源が ON/OFF になっているかを一目で確認することができます。

注意: System メニューで「No timeout on monitoring」の項目にチェックが入っていると (p.51 参照)、ユーザーがこの機能を使用している限り PN0108 での操作はタイムアウトしません。

この画面を終了する場合は、「Device Control」にある「Monitor」以外のボタンをクリックしてください。

Log

Event Log	
Station: PN0108RPSwitch	
☒ Today ☐ All ☐ Selected	
From: (YYYY/MM/DD)	2005/1/7
To: (YYYY/MM/DD)	2005/1/7
OK	

PN0108 では、内部で発生した直近のイベントを最大 100 件まで保持します。この画面では、参照したいイベントの範囲を指定することができます。

- ◆ 本日のログだけを参照する場合は、「Today」のラジオボタンを選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。
- ◆ すべてのログを参照する場合は、「All」のラジオボタンを選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 特定期間のログを参照する場合は、「Selected」のラジオボタンを選択し、「From」欄に対象期間の開始日を、「To」の欄に終了日をそれぞれ入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。

「Event Log List」で「OK」ボタンをクリックすると、以下のような画面が表示されます。

Event Log List			
Station: PN0108RPSwitch			
No.	Date/Time	User	Message
65.	2005/01/10 16:05:11	administ	Logged in
66.	2005/01/10 16:06:07	administ	Turned off Group All (Outlet: A)
67.	2005/01/10 16:06:07	administ	Turned off Group All (Outlet: B)
68.	2005/01/10 16:06:07	administ	Turned off Group All (Outlet: C)
69.	2005/01/10 16:06:07	administ	Turned off Group All (Outlet: D)
70.	2005/01/10 16:06:07	administ	Turned off Group All (Outlet: E)
71.	2005/01/10 16:06:07	administ	Turned off Group All (Outlet: F)
72.	2005/01/10 16:06:07	administ	Turned off Group All (Outlet: G)
73.	2005/01/10 16:06:07	administ	Turned off Group All (Outlet: H)
74.	2005/01/10 16:08:35	administ	Logged in
75.	2005/01/10 16:12:01	administ	Logged in
76.	2005/01/10 16:19:48	administ	Logged in
77.	2005/01/10 16:22:07	administ	Logged in
78.	2005/01/10 16:24:44	administ	Logged in
79.	2005/01/10 16:27:47	administ	Logged out
80.	2005/01/10 16:37:42	administ	Logged in
81.	2005/01/10 16:41:41	administ	Logged out
82.	2005/01/10 19:28:53	administ	Logged in
83.	2005/01/10 19:29:12	administ	Logged out
84.	2005/01/11 14:38:28	administ	Logged in
85.	2005/01/11 14:38:34	administ	Turned on (Outlet: A)
86.	2005/01/11 14:38:35	administ	Turned on (Outlet: B)

Back

Clear All

イベントリストの参照が終了したら、必要に応じて以下の操作を行ってください。

- ◆ 「Event Log」画面に戻る場合は、「**Back**」ボタンをクリックしてください。
- ◆ ログファイルの内容をすべて削除する場合は、「**Clear All**」ボタンをクリックしてください。
- ◆ このメニューを終了する場合は、「Device Control」にある「Log」以外のボタンをクリックしてください。

第 6 章

セーフシャットダウン/リブート

概要

PN0108 のセーフシャットダウン/リブート機能は特定のバージョンの Windows が搭載されているコンピュータでご利用いただけます。電源供給を単純に停止してコンピュータの電源を切った場合、そのコンピュータのファイルシステムに影響を与える場合がございますが、このセーフシャットダウン/リブート機能をご利用いただければ、お使いのシステムを安全に終了し、シャットダウン/リブートすることが可能です。この機能をご利用いただく際には、以下の注意事項の内容をご確認ください。

- ◆ PN0108 とコンピュータの間にシャットダウンケーブルを必ず接続してください。(p.27「単体使用」参照)
- ◆ コンピュータの BIOS の電源管理の設定で、「Modem Ring Resume」または「System after AC back」のいずれかを有効にしてください。BIOS にこれらの項目が両方ある場合は、両方とも有効にされることを推奨します。

BIOS における電源管理設定

お使いのコンピュータの BIOS で電源管理の設定を行う場合は、以下の注意事項を必ずご覧ください。

1. BIOS での設定内容と、電源出力ポートの「Configuration」メニューで設定した内容が一致していることを確認してください。(p.52「Configuration」参照)
2. 「Modem Ring Resume」を選択した場合は、以下の点にご注意ください。
 - a) お使いのシステム BIOS がこの機能に対応している必要があります。
 - b) お使いのコンピュータのマニュアルをご覧ください、そのシステムが COM ポートの外部モデムウェークアップ機能に対応しているかご確認ください。(一部の BIOS のバージョンでは内部 PCI カードモデム使用時以外には、この機能をサポートしない場合があるため)
 - c) お使いの BIOS が COM ポートの外部モデムウェークアップ機能に対応していない場合は、この機能をご利用になるために内部 PCI カードモデムをセットアップしても差し支えありません。

3. システムによっては、「Modem Ring Resume」が別の言葉で表されている場合があります。以下はその例です。

- ◆ Wake On LAN / Ring Connector
- ◆ Modem Ring On
- ◆ Power On By External Modem

BIOS の設定では、この項目を「**Enabled**」(有効)に設定してください。

4. システムによっては、「System after AC back」が別の言葉で表されている場合があります。以下はその例です。

- ◆ AC Loss Auto Restart
- ◆ Restore on AC Power Loss

BIOS の設定では、この項目を「**Power On**」(または **Full On**)に設定してください。

5. Windows NT をお使いの環境では、「System after AC back」機能を使用してください。

自動セットアップ

セーフシャットダウン/リブートの設定は、自動または手動の 2 種類の方法で行うことが可能です。このセクションでは、自動セットアップの方法について説明します。手動セットアップの詳細については p.66 で説明しますので、そちらをご参照ください。自動セットアップは、製品同梱のソフトウェア CD に収録されている電源モニターティリティである Power Monitor をご利用いただくことで可能です。

注意: Power Monitor は Windows のみで動作します。

Power Monitor は、UPS の信号によってコンピュータの電源の状態を監視します。UPS が電源障害もしくはバッテリー不足であることを信号で通知すると、ダイアログボックスがポップアップ表示され、数秒以内にセーフシャットダウンを実行するというメッセージが表示されます。

インストール

Power Monitor をインストールする場合は、自己解凍ファイル (PMonitorSetup.exe) を実行してください。OS が起動したときに、このプログラムが自動的に立ち上がるように、PMonitor.exe のショートカットが Windows のスタートアップに作成されます。

監視が有効である場合、稲妻をかたどったアイコン()が Windows のタスクトレイに現れます。

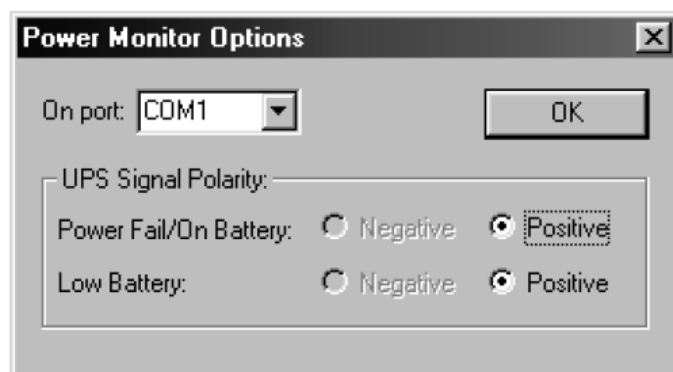
また、監視が一時的に無効になっている場合、停止状態のアイコン()が表示されます。

- ◆ この稲妻のアイコンを右クリックし、メニューから「Start Monitor」を選択すると監視を有効にし、「Stop Monitor」を選択すると、監視を無効にします。
- ◆ この稲妻のアイコンを右クリックし、メニューから「Exit」を選択すると、Power Monitor を終了します。

デフォルトでは、Power Monitor は COM1 ポートを監視します。ユーティリティによって「COM1 ポートを開くことができない」という内容のエラーメッセージが表示された場合、そのポートが別のプログラムによって使用されていることを意味します。

この場合、COM1 を使用しているプログラムを停止して再試行するか、Power Monitor が別の COM ポートを使用するように設定することで解決します。Power Monitor で別の COM ポートを使用する場合は、以下の手順で操作してください。

1. Power Monitor プログラムを停止してください。
2. セーフシャットダウンケーブルを COM1 以外のポートに接続してください。
3. 停止状態を表す稲妻のアイコンを右クリックし、メニューから「Options」を選択してください。以下のようなダイアログが表示されます。



4. 「On Port」というラベルがついている COM ポートのリストから、セーフシャットダウンケーブルが接続されている COM ポートを選択し、「OK」ボタンを押してください。

注意: この画面には設定項目が複数存在しますが、ユーティリティは正の UPS 信号のみを監視するため「UPS Signal Polarity」の各項目は固定値(正)を使用します。この画面では、通信で使用する COM ポートのみを選択してください。

アンインストール

ユーティリティをアンインストールする場合は、以下の手順で作業してください。

1. Power Monitor プログラムを終了します。
2. Windows のスタートメニューを開きます。
3. [プログラム]—[ALTUSEN Power Monitor]—[Uninstall Power Monitor] を選択してください。

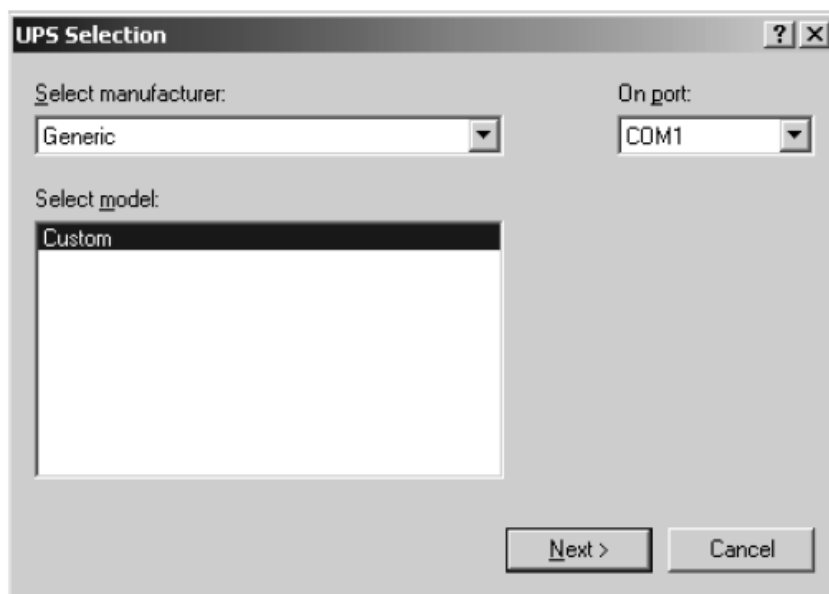
手動セットアップ

Windows NT、2000、XP および Windows Server 2003 は、Power Monitor ユーティリティを使わず、セーフシャットダウン/リブートに関する設定を手動で行うことが可能です。以下のセクションでは、その手順について説明していきます。

Windows 2000/XP/Server 2003

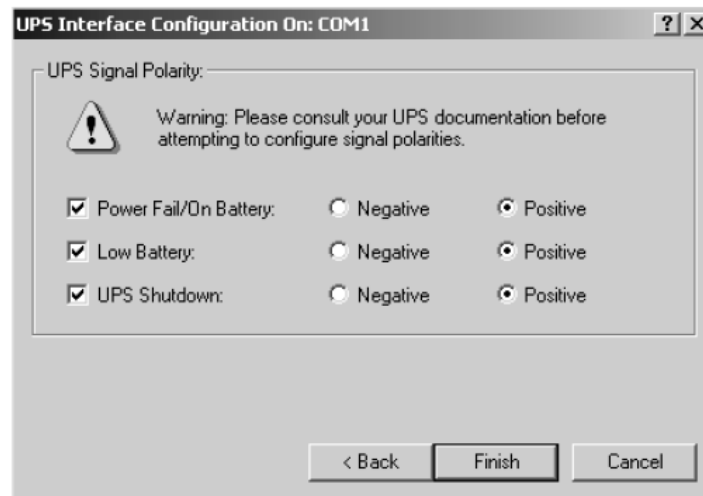
Windows 2000、XP または Windows Server 2003 でセーフシャットダウン/リブートの設定を行う場合、以下の手順で操作してください。

1. [コントロールパネル]–[電源オプション]のメニューを起動し、表示されたダイアログで[UPS]タブを開いてください。[詳細]パネルにある[選択]ボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。



- a) 「ポート」のリストから、セーフシャットダウンケーブルが接続されているコンピュータの COM ポートを選択してください。
- b) その他の項目は、上図の内容と同じになるように設定してください。

2. 「Next」ボタンをクリックしてください。下図のようなダイアログが表示されます。

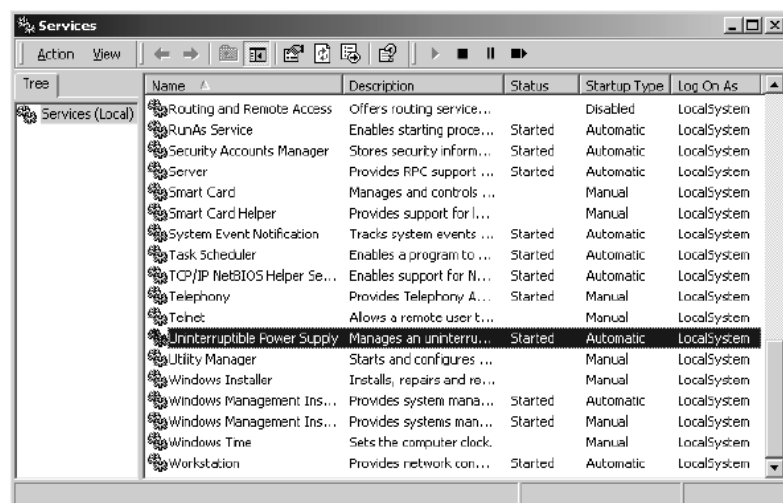


お使いの環境を、上図の内容に設定してください。

3. 「UPSの構成」ダイアログで「完了」ボタンをクリックし、「電源のオプションプロパティ」ダイアログで「OK」ボタンをクリックしてください。

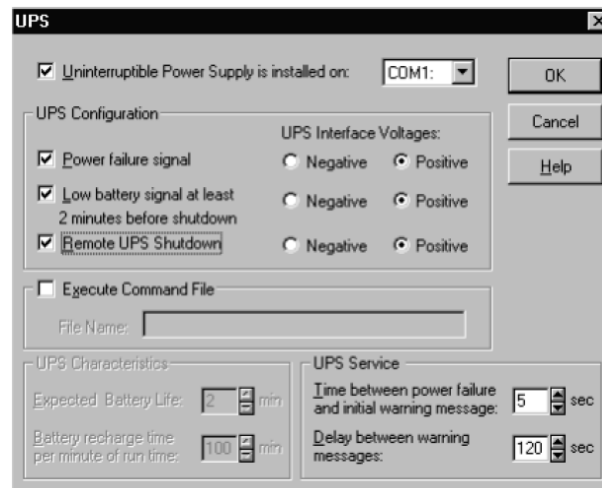
以下の手順で、セットアップした内容で正しく動作しているかどうか確認することができます。

1. [コントロールパネル]—[管理ツール]—[サービス]メニューを表示します。
2. [サービス]メニューで、下図のように「Uninterruptible Power Supply」の状態が「開始」になっていることを確認してください。



Windows NT

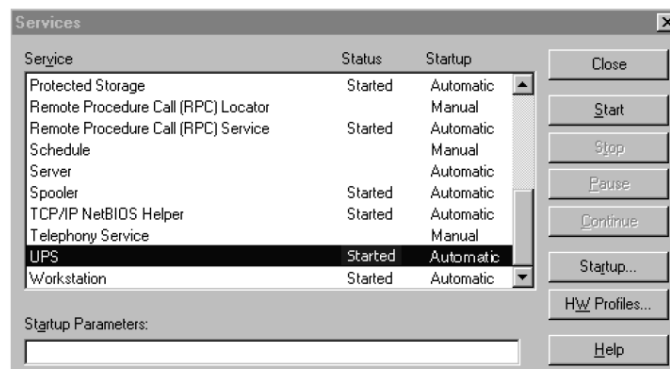
1. [コントロールパネル]—[無停電電源(UPS)]メニューを選択してください。以下のようなダイアログが表示されます。



- a) COM ポートの一覧から、セーフシャットダウンケーブルが接続されているコンピュータの COM ポートを選択してください。
 - b) その他の項目は、上図の内容と同じになるように設定してください。
2. 「OK」ボタンをクリックし、設定を完了してください。

以下の手順で、セットアップした内容で正しく動作しているかどうか確認することができます。

1. [コントロールパネル]—[サービス]メニューを表示します。
2. [サービス]メニューで、下図のように「Uninterruptible Power Supply」の状態が「開始」になっていることを確認してください。



第7章

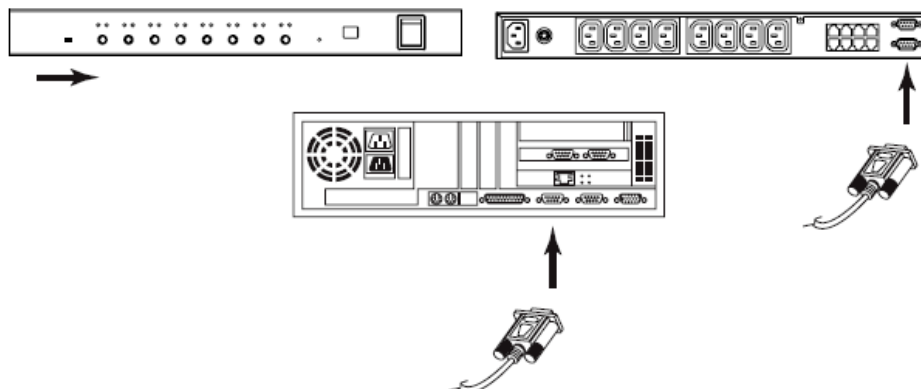
ファームウェアアップグレード

Windows ベースのファームウェアアップグレードユーティリティ(FWUpgrade.exe)を利用することで、お使いの PN0108 のファームウェアを簡単に自動アップグレードできます。このユーティリティは各製品のファームウェアアップグレードパッケージに含まれております。最新のファームウェアは ATEN Web サイトで公開しておりますので、定期的にダウンロードサイトをご覧くださいようお願いします。 <http://www.aten.com/download/download.php>

注意: PN0108 が PN9108 に接続している環境では、PN9108 のファームウェアアップグレードと同時に PN0108 のファームウェアアップグレードを行いますので、PN0108 のファームウェアを個別にアップグレードする必要はありません。

アップグレード作業をはじめる前に

1. 弊社 Web ダウンロードサイトにアクセスし、ファームウェアの型番リストから PN0108 を選択してください。
2. アップグレードしたいバージョンのパッケージを選択し、コンピュータにダウンロードしてください。(最新版のダウンロードを推奨します)
3. 製品同梱の PON ケーブルを使用し、PN0108 側ファームウェアアップグレードポートと、ファームウェアパッケージを保存したコンピュータ側 COM ポートを接続してください。



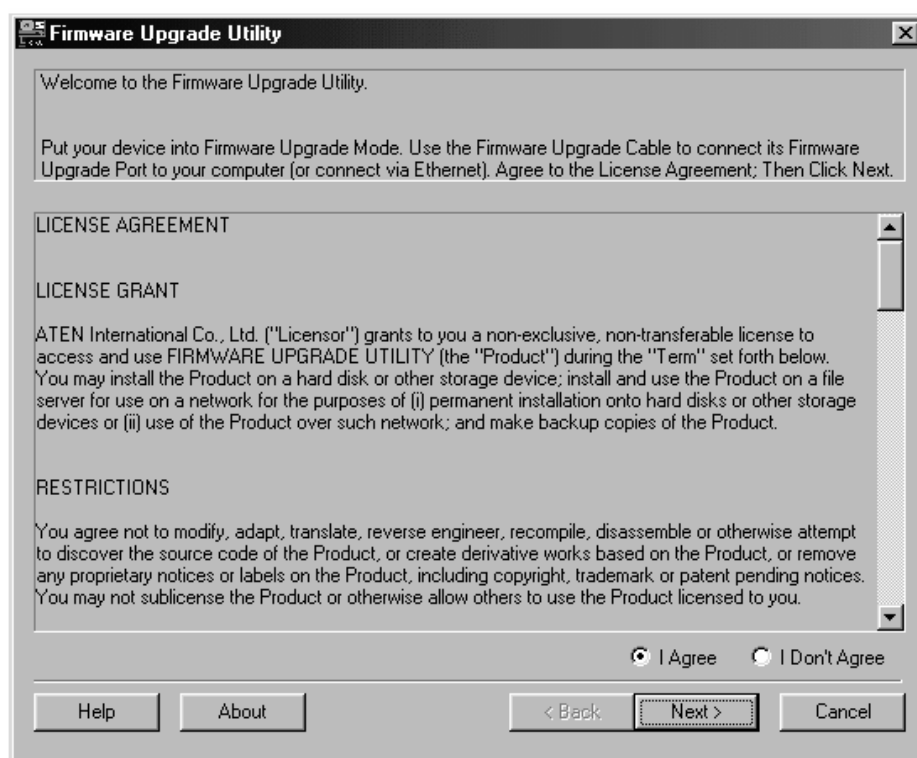
4. 1 台目のステーションのファームウェアアップグレードスイッチを、「RECOVER」の位置にスライドさせます。
 - a) ポート LED が 0.5 秒おきに点滅します。
 - b) ステーション ID LED に「UP」という文字が表示され、0.5 秒おきに点滅します。
5. 1 台目のステーションのファームウェアアップグレードスイッチを、「NORMAL」の位置にスライドさせます。
 - a) 1 台目のステーションのステーション ID LED に、デジチェーン接続されているすべてのステーションのステーション番号が、01、02、03…というように、順に表示されます。
 - b) ステーション ID の表示が一通り終わると、1 台目のステーション ID LED には「UP」という文字が表示され、1 秒おきに点滅します。ポート LED も同時に 1 秒おきに点滅します。
 - c) 次に、デジチェーン接続されたステーションの全てのポート LED が 1 秒おきに点滅し、ステーション ID LED には「UP」という文字が 1 秒おきに点滅します。
 - d) 最後に、全てのステーション ID LED は、ステーション ID の表示に戻り、ファームウェアアップグレードの準備ができたことを表しますので、アップグレードの作業を行うことができます。

-
- 注意:**
1. 各ステーションは、順にアップグレードされていきます。現在アップグレードが行われているステーションのステーション ID LED には「UP」という文字が表示され、1 秒おきに点滅します。その他のステーションのステーション ID LED には、ステーション番号が表示され、それが 1 秒おきに点滅します。
 2. アップグレード処理が成功すると、全てのステーションが自動的に再起動します。
-

アップグレード開始

アップグレード作業は以下の手順で行ってください。

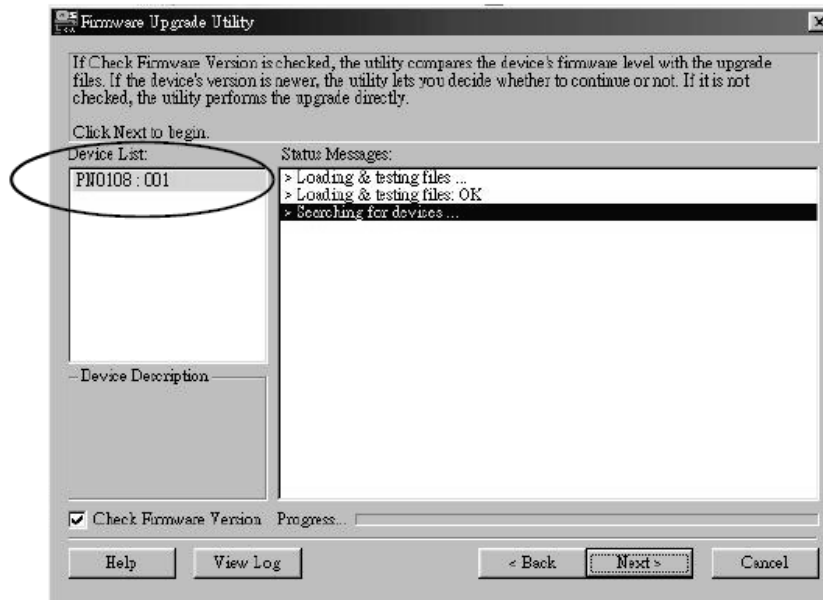
1. ダウンロードされたファームウェアアップグレードパッケージを実行してください。保存したファイルのアイコンをダブルクリック、もしくはコマンドラインからファイルパスを入力して実行します。ファームウェアアップグレードユーティリティの Welcome 画面が表示されます。



2. 使用許諾契約書を読み、同意してください(「I Agree」をチェックすることで同意)。

3. 「Next」ボタンを押して、操作を続けてください。ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます。

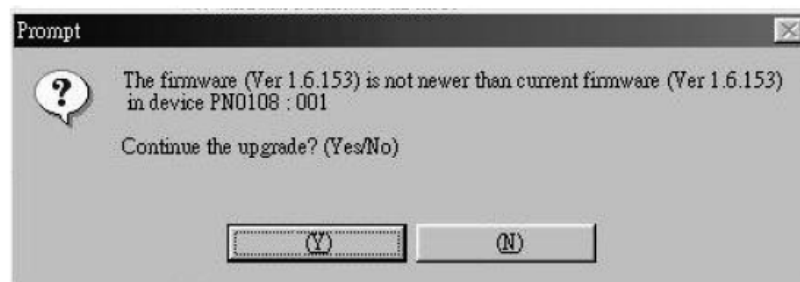
ユーティリティはお使いの PN0108 を検出し、このファイルでアップグレード可能なデバイスをすべて「Device List」パネルに表示します。



デバイス名の背景が青色になっているユニットは、アップグレードの準備が完了していることを表しています。

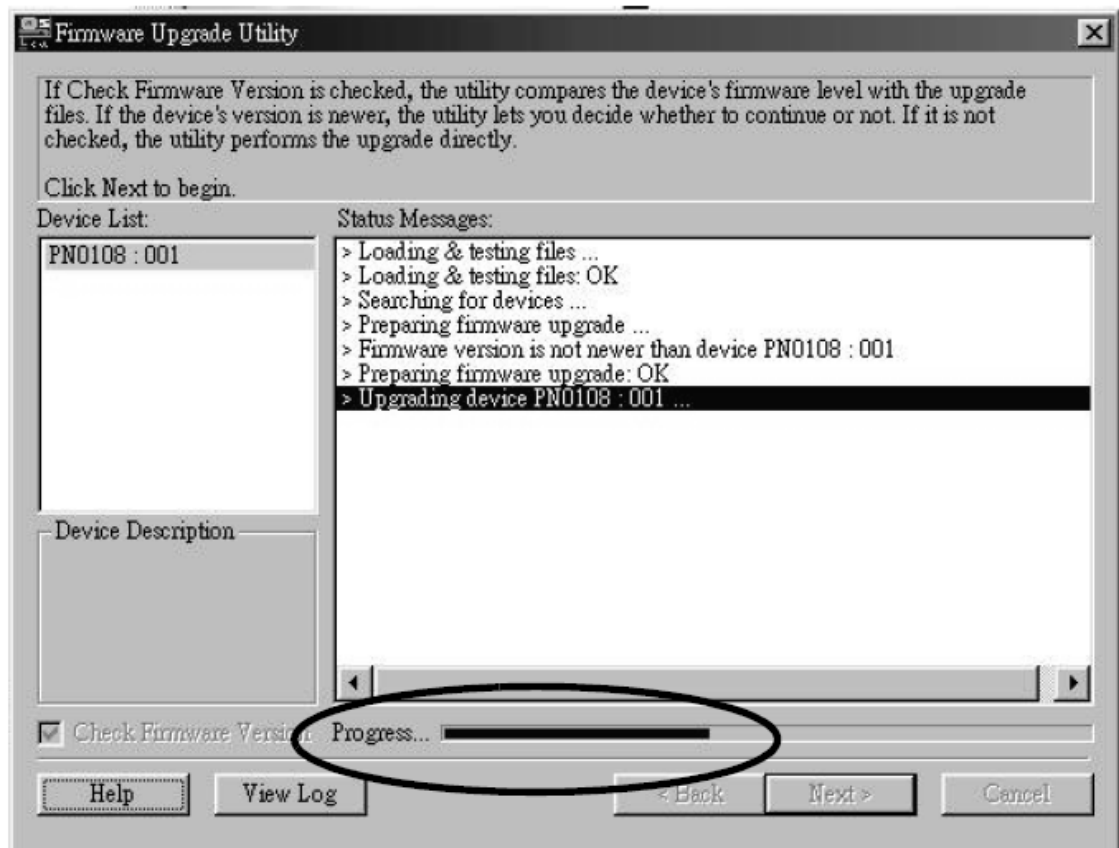
4. アップグレードの対象となるデバイスを「Device List」から選択し、「Next」ボタンをクリックしてアップグレードを実行してください。

「Check Firmware Version」の項目にチェックが入っていると、ユーティリティはデバイスにインストールされているファームウェアのバージョンと、アップグレードファイルのバージョンを比較します。既にインストールされているファームウェアのバージョンよりも古いバージョンのファームウェアを適用しようとする、以下のようなダイアログが表示され、作業を続行するかどうかの選択を促されます。



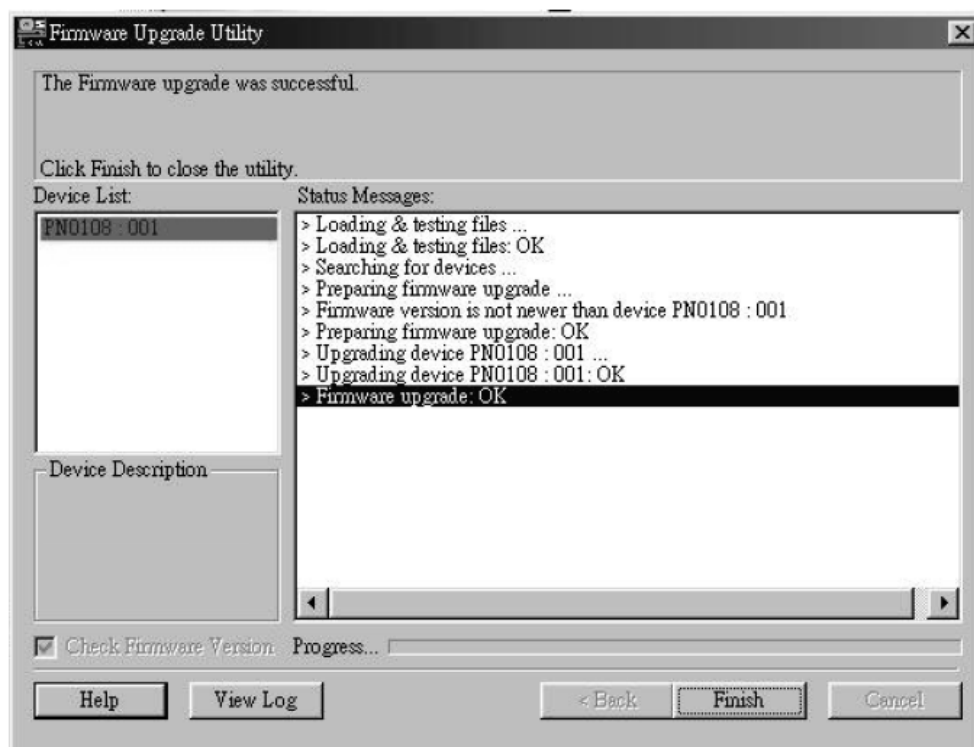
「Check Firmware Version」の項目にチェックが入っていない場合、ユーティリティはバージョンの比較を行わず、アップグレードファイルを実行します。

アップグレード実行中、処理に関わるステータスメッセージはユーティリティの「Status Messages」パネルに表示され、進捗状況はプログレスバーで表されます。



アップグレード成功

アップグレードが完了すると、以下のようなダイアログで、処理が成功したというメッセージが表示されます。

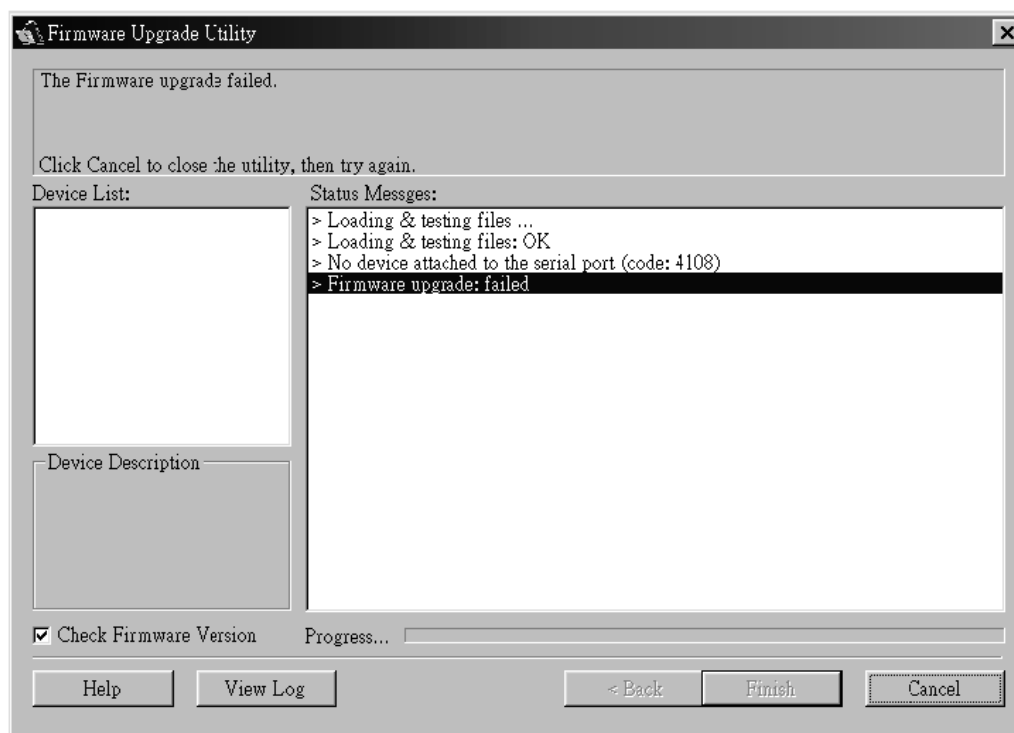


「Finish」ボタンをクリックして、このファームウェアアップグレードユーティリティを終了してください。

注意: お使いの PN0108 がデ이지チェーン接続されている場合、アップグレードに成功すると、全てのステーションが自動的に再起動します。

アップグレード失敗

アップグレードが正常終了しなかった場合、ダイアログボックスが表示され、再試行するかどうかの選択を促されます。再試行する場合は「Yes」ボタンをクリックしてください。「No」ボタンをクリックすると、以下のようなダイアログが表示されます。



ファームウェアアップグレードユーティリティを終了する場合は、「Cancel」ボタンをクリックしてください。ファームウェアアップグレードのリカバリーに関しては次のセクションをご参照ください。

ファームウェアアップグレードリカバリー

単体使用時のリカバリー方法

PN0108 を単体使用されている環境でファームウェアアップグレードのリカバリーを行う場合は、以下の手順で作業してください。

1. PN0108 の電源を切ります。
2. ファームウェアアップグレードスイッチを「RECOVER」の位置にスライドさせます。
3. PN0108 に電源を入れます。
4. PN0108 のアップグレードを最初からやり直します。
5. アップグレードが終わったら、PN0108 の電源を切ります。
6. ファームウェアアップグレードスイッチを「NORMAL」の位置にスライドさせます。
7. PN0108 に電源を入れなおします。

デ이지ーチェーン接続時のリカバリー方法

PN0108 をデ이지ーチェーン接続してお使いの際に、ファームウェアアップグレード作業に失敗した場合は、以下の手順で作業を行ってください。

1. デ이지ーチェーン用のケーブルをはずします。
2. そのケーブルで、お使いのコンピュータと PON IN ポートを接続します。
3. 1 台目のステーションから順にアップグレードリカバリーを実行します。

アップグレードが完了したら、元の構成になるようにデ이지ーチェーン接続しなおしてください。

トラブルシューティング

概要

操作上の問題は様々な理由によって引き起こされます。問題が発生したら、弊社技術サポートにご連絡いただく前に、まず、製品に必要なケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。

また、現在お使いのファームウェアのバージョンが最新でない場合、ファームウェアの最新版を適用することで問題が解決する場合があります。ファームウェアのアップグレードを行う場合は、第7章のファームウェアアップグレードをご参照ください。

問題 1

セーフシャットダウン/リブート操作を実行すると、コンピュータがリブートする過程で自動ログイン機能が動作せず、コンピュータのログオン画面が表示され、ユーザー名とパスワードの入力を求められる。

解決方法

コンピュータに以下の手順で自動ログオンの設定を行ってください。

1. お使いのコンピュータの OS が Windows NT の場合は regedit.exe を、Windows 2000 または XP の場合は regedt32 を実行してください。
2. レジストリエディタで以下の項目を選択してください。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion¥Winlogon
3. レジストリエディタのメニューバーから、[編集]—[新規]—[文字列値]を選択します。

4. 下表の変数と値を追加してください。

名前	値
DefaultDomainName	(このコンピュータのドメイン名)
DefaultUserName	(このコンピュータのユーザー名)
DefaultPassword	(このコンピュータのユーザーパスワード)
AutoAdminLogon	1

注意: 実際に設定する場合は、上の表内に記載されているカッコは除いて、入力する文字列をそのまま設定してください。

5. レジストリエディタを終了してください。

注意: ログインパスワードは空白でなく、実際に文字列として設定されていることを確認してください。

問題 2

BIOS の APM をサポートしていない旧式のメインボードがコンピュータに搭載されている場合、どのようにセーフシャットダウン/リブートを行えばよいのか？

解決方法

Windows 2000、XP または Windows Server 2003 が搭載されているコンピュータをお使いの場合は以下の設定を行ってください。

1. [コントロールパネル]－[電源オプション]メニューを開いてください。
2. 「電源オプションプロパティ」の「APM」タブを開いてください。
3. 「アドバンスドパワーマネジメントを開始する」の項目にチェックを入れてください。

問題 3

ログインすると、ブラウザで「ルート認証局が発行した電子証明書は信頼できません」というメッセージや認証エラーが返ってくる。

解決方法

Microsoft の信頼された認証局のリストに認証名が登録されていませんが、この証明書は信頼できるものです。詳細については p.82 の「信頼された証明書」をご覧ください。

問題 4

コンピュータがセーフシャットダウンを行うように設定したにもかかわらず、一部のコンピュータでセーフシャットダウンがうまくいかない。

解決方法

この現象は、編集集中のドキュメントの保存方法を選択するダイアログ等、ユーザーからの応答を待っているダイアログボックスが表示されたままになっていることに起因します。これらのダイアログに応答しない限り、シャットダウンは完了しません。

シャットダウンの方法を、「Kill the Power」(セーフシャットダウンのオプションではありません)に変更したり、Over IP 製品を使ってリモートアクセスし、これらのダイアログを操作したりすることで解決できます。

問題 5

「Modem Ring Resume」を有効にしたにもかかわらず、コンピュータが再起動しない。

解決方法

1. コンピュータの BIOS 設定で「Modem Ring Resume」が有効になっていることを確認してください。
2. コンピュータの BIOS 設定で「Modem Ring Resume」が有効になっている場合、お使いのメインボードのマニュアルをご覧になり、外部モデムウェークアップに対応していることを確認してください。詳細は p.62 の「BIOS における電源管理設定」をご参照ください。
3. 「Modem Ring Resume」は、正常パワーダウン後における再起動に対応しております。コンピュータを強制終了した、または電源障害など正常でない方法によってシャットダウンした場合は、「Modem Ring Resume」を再度有効にするためにコンピュータを再起動しなければなりません。これを回避するには、「System after AC Back」を有効にしてください。(p.54「System after AC Back」参照)

お使いのコンピュータの BIOS で「Modem Ring Resume」と「System after AC Back」の両方に対応している場合は、この両方を有効にされることを推奨します。

問題 6

PN0108 で電源出力ポートの「System after AC Back」を有効にしたが動作しない。

解決方法

そのポートに割り当てられているコンピュータの BIOS で、「System after AC Back」が **ON** になっていることを確認してください。（「System after AC Back」の設定内容には、「Last State」「Pre-State」ではなく、「ON」「Always On」等を選択してください。）

問題 7

PN0108 をラックマウントした後で、ユニットリアパネルに接続されているケーブルがよく抜ける。

解決方法

本製品で使用するコネクタはすべて業界標準仕様に準拠しておりますが、万が一、問題が発生した場合は、結束バンドやケーブルサポートバーを使用し、ケーブルを整理してください。お使いのラックにおける適切な配線については、ラックの販売店までお問い合わせください。

PN0108 との併用対応製品

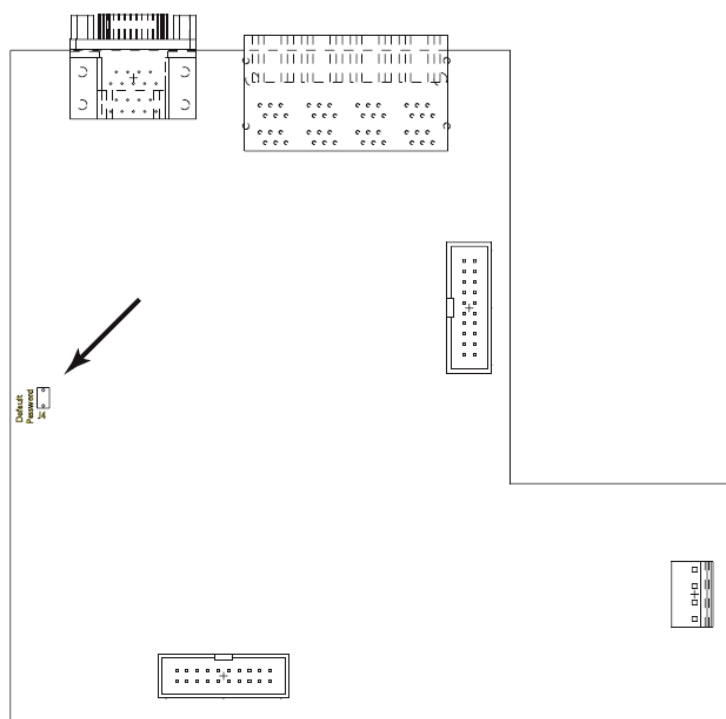
以下は PN0108 との併用に対応している製品の一覧です。

- ◆ CN-6000
- ◆ KH1508i/KH1516i
- ◆ KN2108/KN2116
- ◆ KN9108/KN9116
- ◆ SN0108/SN0116
- ◆ KL9108/KL9116
- ◆ PN9108

アドミニストレーターでログインできない場合

ユーザーネームやパスワードを忘れた等の理由でアドミニストレーターとしてログインできない場合、以下の手順でログイン情報を消去してください。

1. PN0108 の電源を切り、カバーをはずしてください。
2. J4 と書かれているジャンパをショートさせてください。

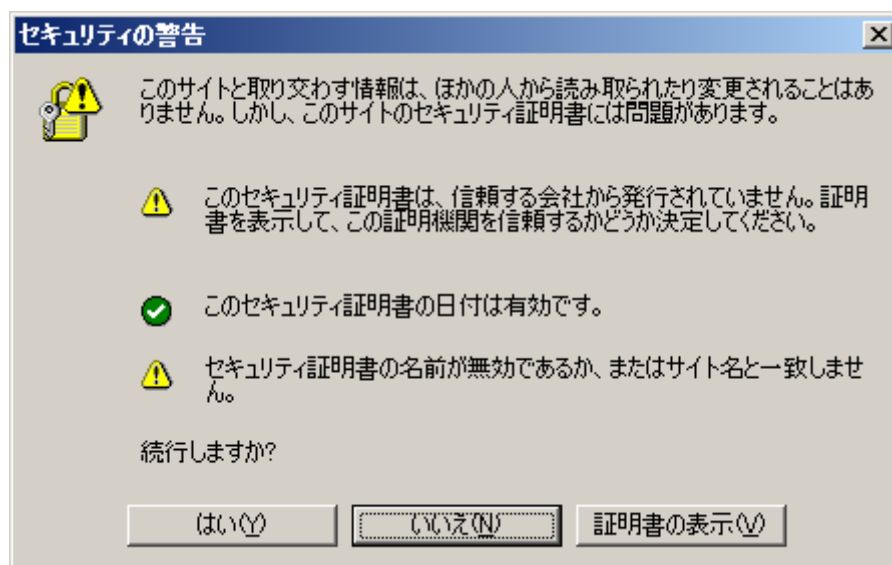


3. PN0108 に電源を入れてください。
4. 5 秒待機した後、PN0108 の電源を切ってください。
5. J4 に取り付けられているジャンパキャップを取り外してください。
6. ケースを製品本体に取り付け、PN0108 に電源を入れなおします。
電源を入れなおすと、デフォルトのユーザーネームとパスワードでログインできるようになります。

信頼された証明書

概要

Web ブラウザ経由で CN-6000 等の Over IP 製品にログインした際に、以下のようなセキュリティ警告ダイアログで、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



この証明書は信頼できるものですが、証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログが表示されます。このダイアログには以下のいずれかの方法で対応してください。

- 1) ダイアログの警告を受け入れず、「Yes」ボタンを押して、処理を続行する。
 - 2) 証明書をインストールし、信頼できるものと認識させる。
- ◆ 別のユーザーのコンピュータから作業している場合は「Yes」ボタンを押して、この証明書を現在のセッションのみ受け入れてください。
 - ◆ ご自身のコンピュータから作業している場合は、証明書をお使いのコンピュータにインストールしてください。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。方法の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

証明書のインストール

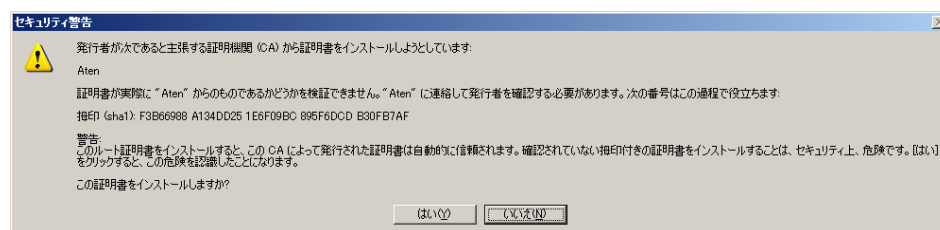
証明書のインストールは以下の手順で作業してください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「証明書の表示」ボタンをクリックします。これをクリックすると以下のような「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



注意: 上図内の赤い枠で囲まれている「×」の印は、この証明書は信頼できないと認識されていることを表しています。

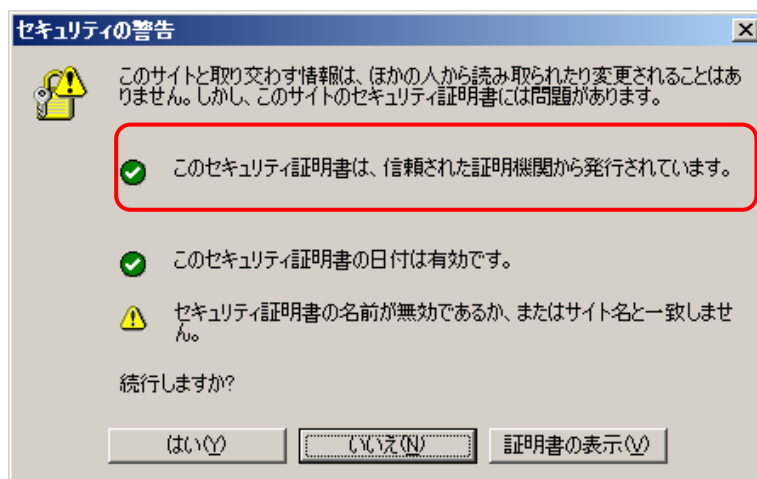
2. 「証明書のインストール」ボタンをクリックします。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めていきます。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールをしてください。
4. 以下のような警告ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンを押してください。



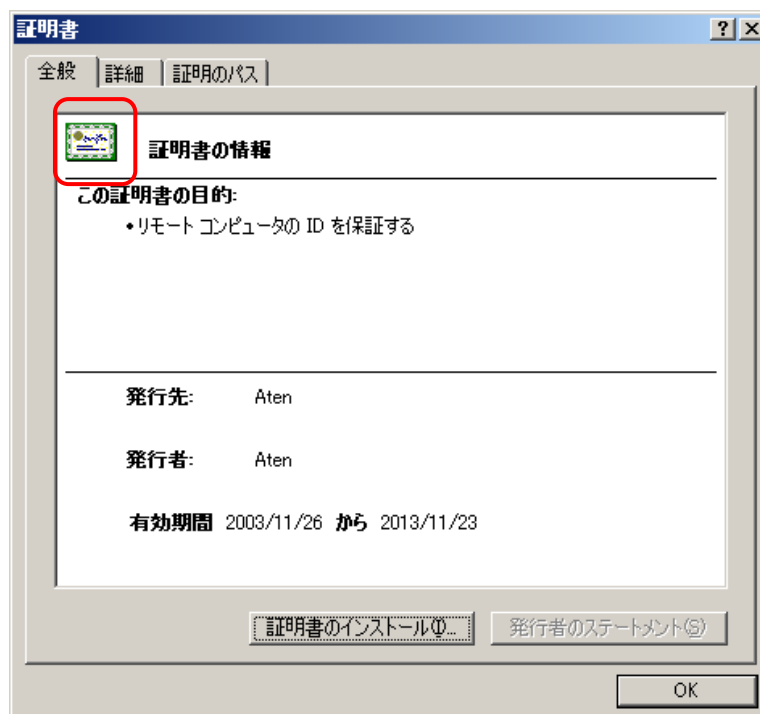
5. ダイアログから「完了」ボタンを押してインストール作業を完了させてください。「OK」ボタンを押すとダイアログが閉じられます。

証明書のインストール完了

この作業により、証明書は信頼できるものに変更されました。



「証明書の表示」ボタンをクリックすると、インストール前に見られた「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



製品仕様

機能		PN0108
電源入力		IEC60320/C14 オス×1
電源出力	インターフェース	IEC60320/C13 メス×8
	ダイレクト接続	8
	最大(デイジーチェーン)	128
入力定格電力(総入力)		100V, 50/60Hz, 11A
出力定格電力		100V, 50/60Hz, 10A
スイッチ	電源	ロッカースイッチ×1
	リセット	ピンホール型スイッチ×1
	電源 ON/OFF	プッシュボタン×8
	リモート ON/OFF	
	ステーション ID/供給電流 選択	プッシュボタン×1
	ブレーカー	プッシュボタン×1
	ファームウェアアップグ レード	スライドスイッチ×1
デイジーチェーンポート	PON IN	DB9 ピンメス×1
	PON OUT	DB9 ピンオス×1
セーフシャットダウンポート		RJ-11×8
LED	電源	オレンジ×8
	リモートアクセス	グリーン×8
	ステーション ID	7 セグメントデジタル表示 オレンジ×2
消費電力	外部出力なし	100V、15W
	最大出力時	100V、1440W
動作環境	動作温度	0～40℃
	保管温度	-20℃～60℃
	湿度	0～80%RH 結露なきこと
ケース材料		メタル

(表は次のページに続きます)

機能	PN0108
重量	3.7kg
サイズ(W×D×H)	437×210×44mm
同梱品	電源ケーブル×1 デイジーチェーンケーブル×1 セーフシャットダウンケーブル×8 IEC60320NEMA 変換ケーブル×8 ラックマウントキット×1 ユーザーマニュアル×1 クイックスタートガイド×1 ソフトウェア CD×1 フットパッド(4pcs)×1
デイジーチェーン対応製品	PN9108 PN0108
PN0108 対応製品	CN-6000 KH1508i KH1516i KN2108 KN2116 KN9108 KN9116 SN0108 SN0116 KL9108 KL9116 *本製品は上記製品との組み合わせることによって使用が可能となります。単体で使用することはできません。